

報告事項（2）第9期介護保険事業計画策定に向けたアンケート調査結果について

1 調査の概要

調査分類	調査対象	調査期間	調査方法	調査件数	回収数	回収率 (前回)
①介護サービス利用アンケート	介護サービス未利用者とその家族	R4. 12	郵送	600	253	42.2% (47.2%)
	居宅で介護サービスを利用している方とその家族		郵送	800	381	47.6% (50.0%)
	施設で介護サービスを利用している方		郵送	300	121	40.3% (59.7%)
②在宅介護実態調査	在宅で生活している要支援・要介護認定者	R4. 12 ～ R5. 2	聴取等	656	656	100.0% (100.0%)
③日常生活圏域ニーズ調査	在宅で生活している要支援認定者、一般高齢者	R4. 12	郵送	9,890	5,977	60.4% (63.3%)
④介護人材実態調査	市内の介護保険サービス事業所	R4. 12	郵送	239	160	66.9% (66.9%)
⑤介護サービス意向調査		R4. 12	郵送	113	81	71.7% (63.7%)

なお、各グラフの数値は、小数点2位で四捨五入しているため、合計が「100.0」にならないことがあります。また、複数回答の設問は合計が「100.0」を超えることがあります。

2 アンケート調査結果の傾向分析について

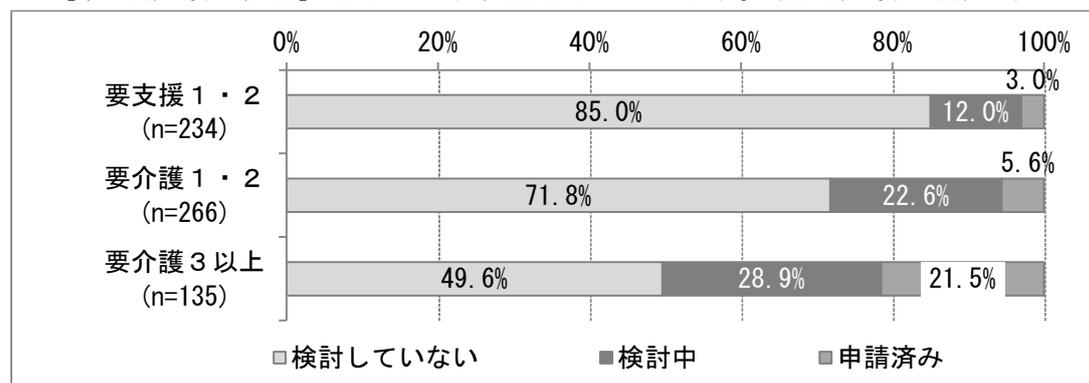
次期計画策定に向けて実施した5種類のアンケート調査結果を基に、以下の特徴を抽出しました。なお、分類・整理に当たっては、調査対象により「要介護認定者・家族介護者の視点からの傾向」「介護保険サービス事業者の視点からの傾向」「元気な高齢者の視点、要介護リスクの傾向」の3種類に分類しています。

また、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を基に算出した「要介護リスクの傾向」を別途記載しています。

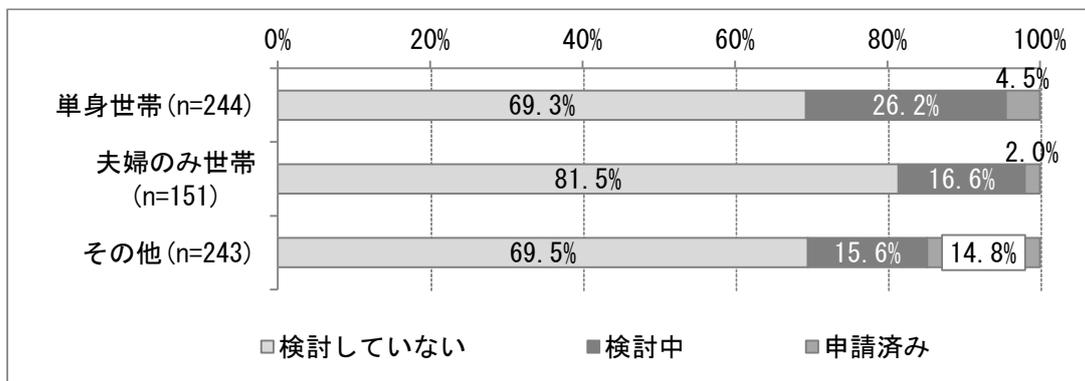
（1）要介護認定者・家族介護者の視点からの傾向

●要介護3以上の5割近くが施設等への入所を検討していない。

- 施設等への入所の検討状況を要介護度別で見ると、各区分において「検討していない」が最も高い割合となっており、「要介護3以上」では49.6%と5割近くが回答しています。
- なお、「申請済み」は「要介護3以上」で21.5%みられるほか、「検討中」は「要介護1・2」、「要介護3以上」ともに20%以上となっています。（在宅介護実態調査）

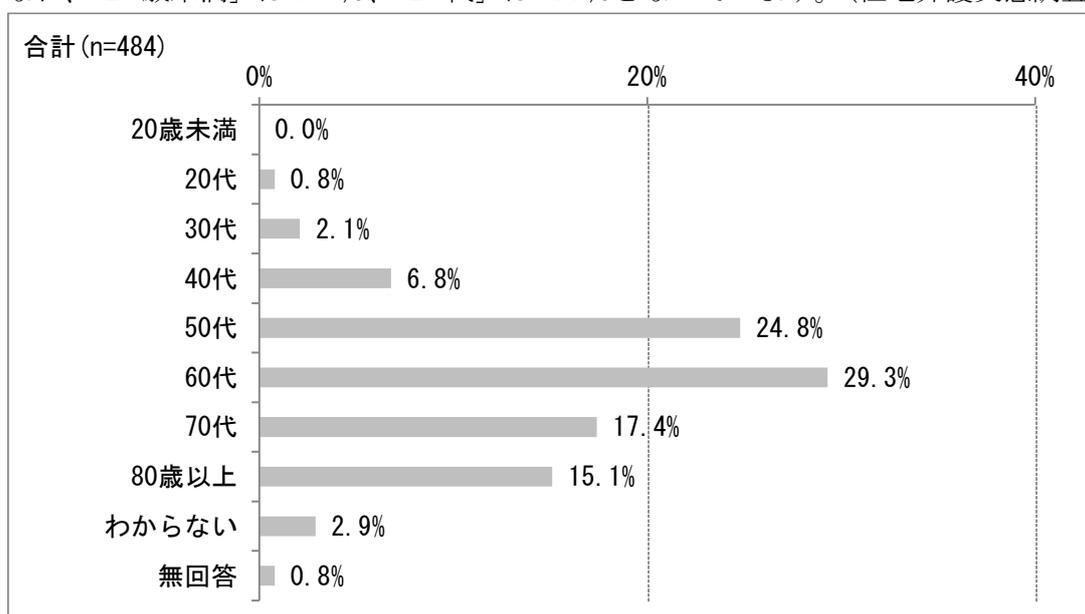


- また、これを世帯類型別にみると、各分類とも「検討していない」が最も高い割合となっています。なお、「申請済み」は「その他」世帯で14.8%、「検討中」は「単身世帯」で26.2%と比較的高い割合となっています。(在宅介護実態調査)

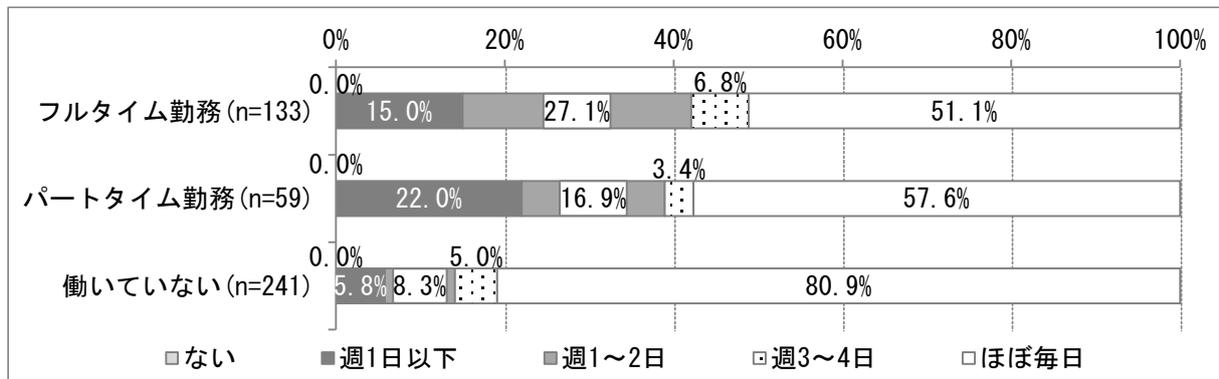


●介護と仕事を両立している介護者が多くみられる。

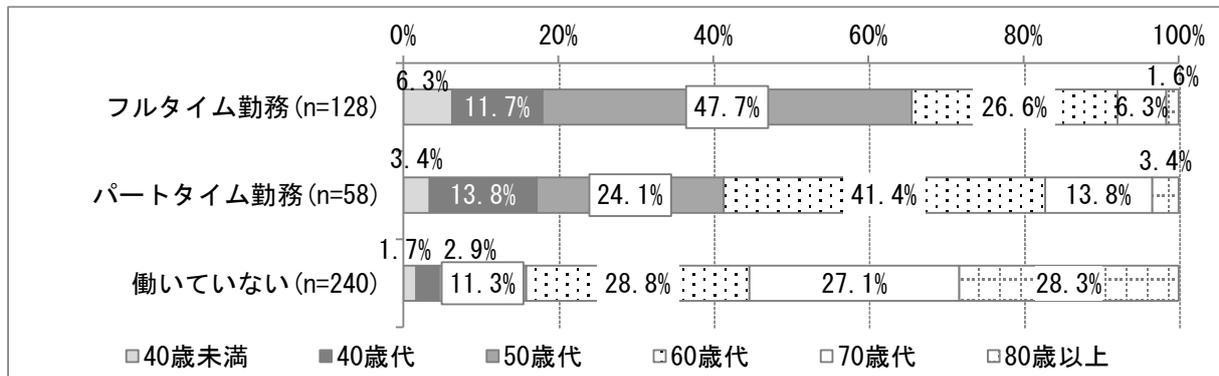
- 認定者のうち、自宅で家族等から介護を受けている人は74.7% (648人中484人) となっています。
- 認定者を介護している家族介護者の年齢は、「60代」が29.3%、「50代」が24.8%となっており、この2つの年齢層で54.1%となっています。
- また、「60代以上」が61.8%と6割以上となっています。
- なお、「20歳未満」は0.0%、「20代」は0.8%となっています。(在宅介護実態調査)



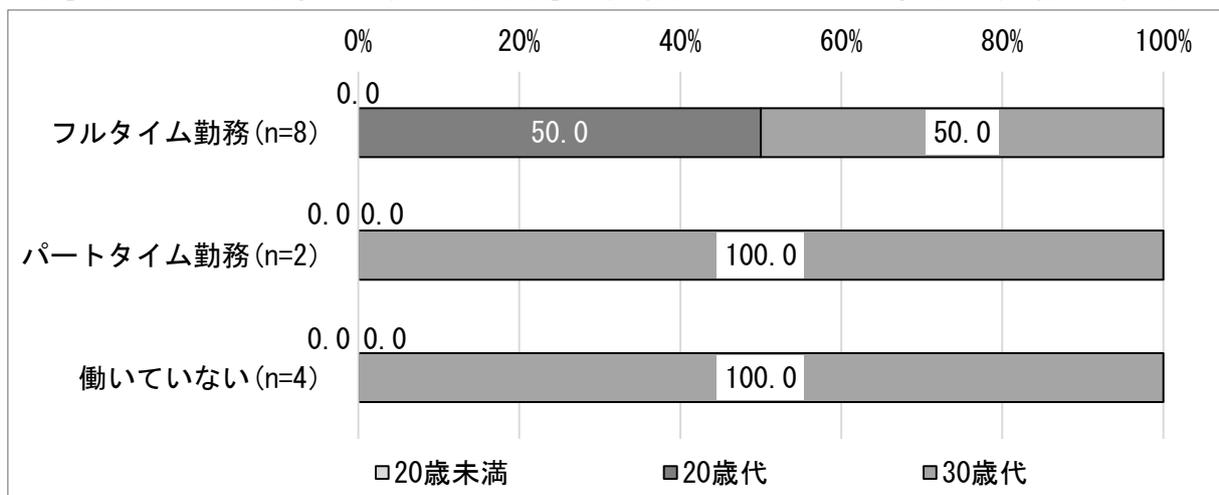
- 家族等による介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「ほぼ毎日」が「フルタイム勤務」で51.1%、「パートタイム勤務」で57.6%と半数以上となっています。(在宅介護実態調査)



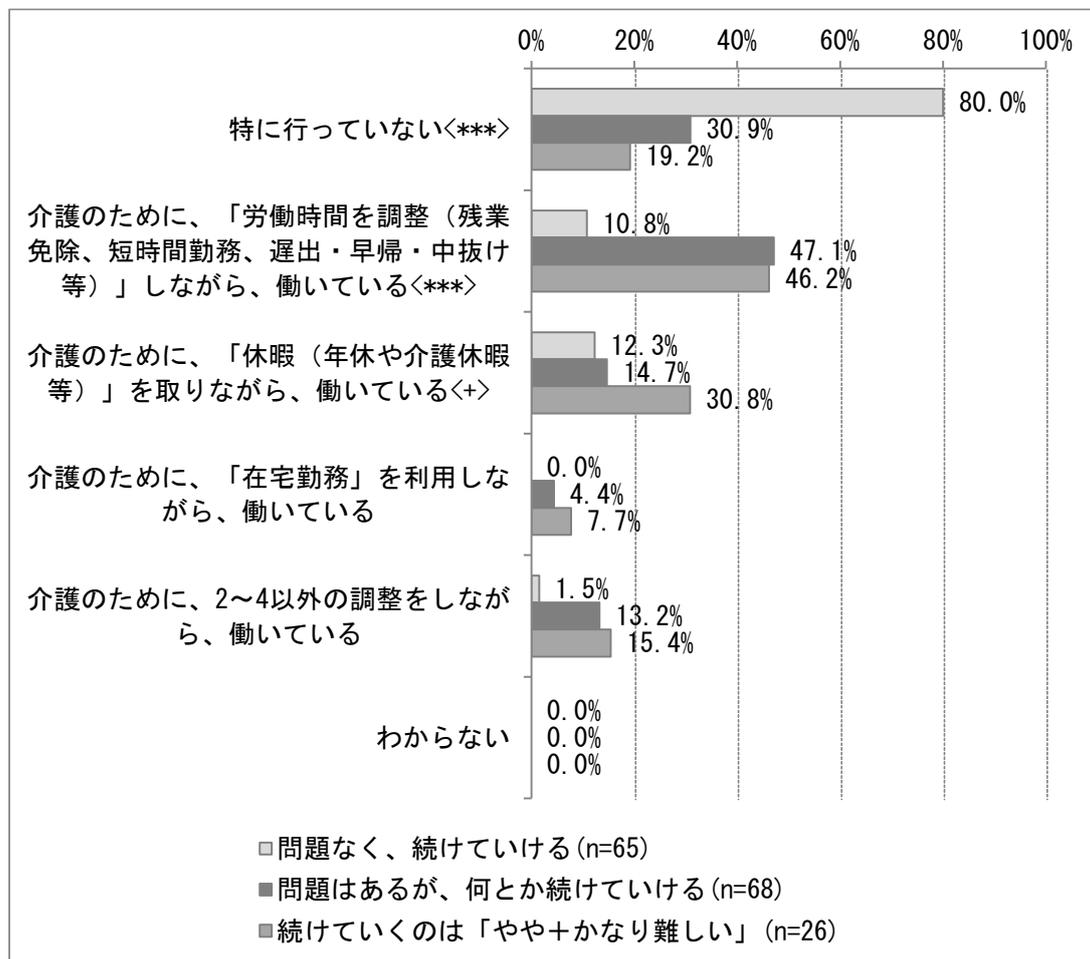
- また、主な介護者の年齢を勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が47.7%、「パートタイム勤務」では「60歳代」が41.4%と最も割合が高くなっています。(在宅介護実態調査)



- さらに、40歳未満の内訳をみると、「フルタイム勤務」では「20歳代」と「30歳代」が50.0%ずつ(各4人)、「パートタイム勤務」と「働いていない」介護者は、全員が「30歳代」となっています。なお、「20歳未満」の介護者はみられません。(在宅介護実態調査)

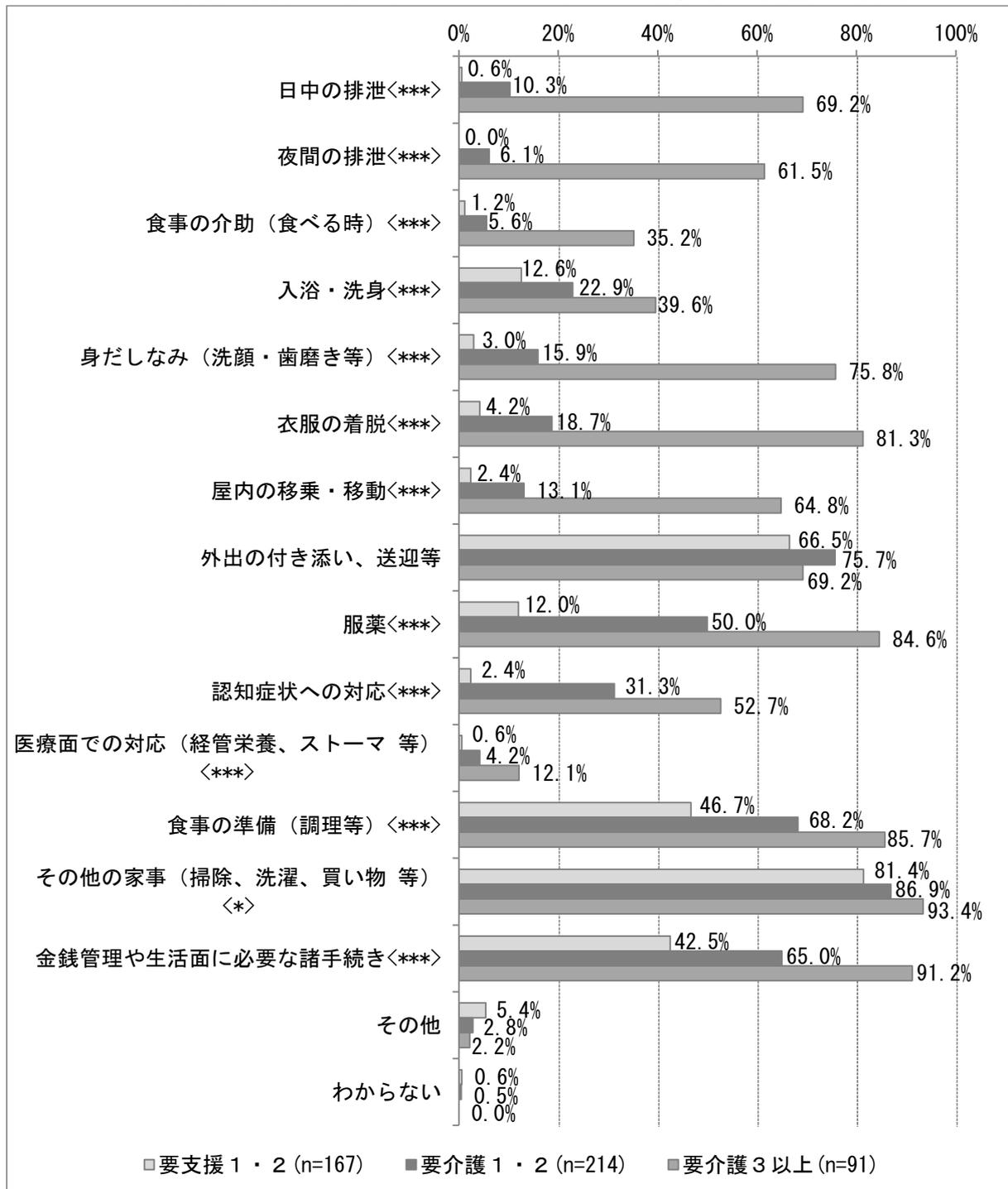


○ 主な介護者の働き方の調整について、「続けていくのは『やや+かなり難しい』」の回答の割合は、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』をしながら、働いている」では46.2%、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」で30.8%となっています。（在宅介護実態調査）

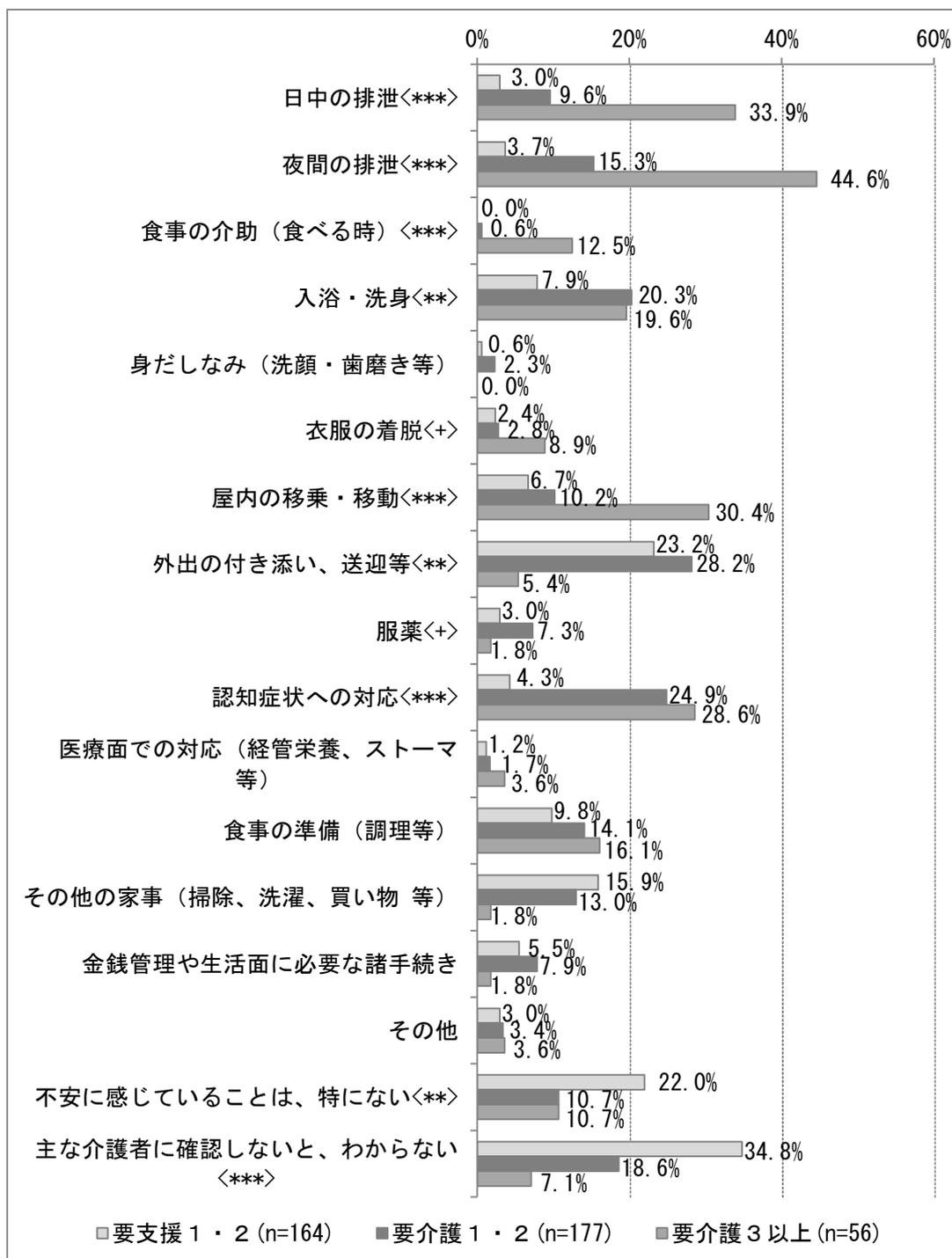


●介護者が行っている介護は、「その他の家事（掃除・洗濯・買い物等）」と「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が90%を超える。

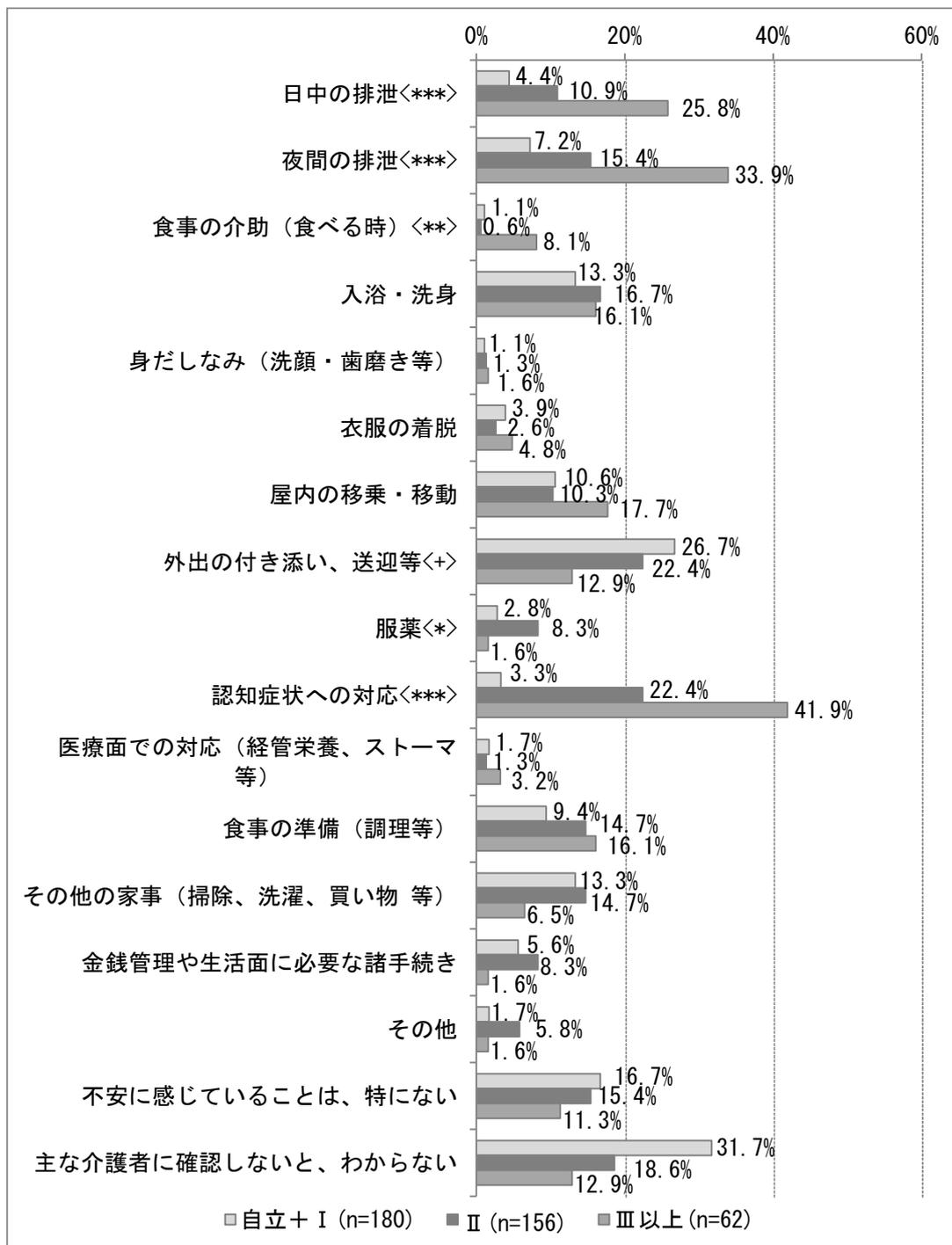
- 主な介護者が行っている介護について、「要介護3以上」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」では93.4%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が91.2%となっています。
- なお、「外出の付き添い、送迎等」と「その他」を除く全ての介護で、要介護度が重度になるにつれて介護の範囲が大幅に拡大していくとみられます。（在宅介護実態調査）



- 主な介護者が不安を感じる介護について、「要介護3以上」では「夜間の排泄」が44.6%と最も割合が高くなっています。
- なお、要介護度が重度になるにつれて「日中の排泄」と「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」、「食事の準備（調理等）」が高い割合となっています。（在宅介護実態調査）

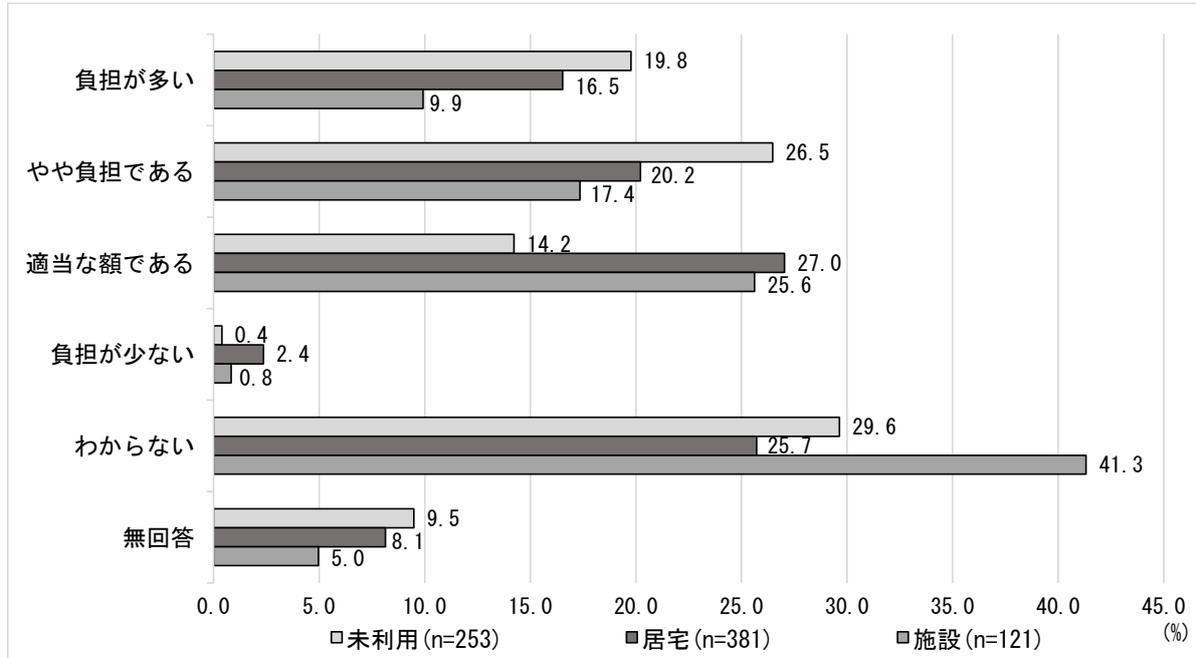


- また、認知症高齢者自立度別にみると、「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が41.9%と最も割合が高く、「日中の排泄」と「夜間の排泄」が比較的高い割合となっています。(在宅介護実態調査)

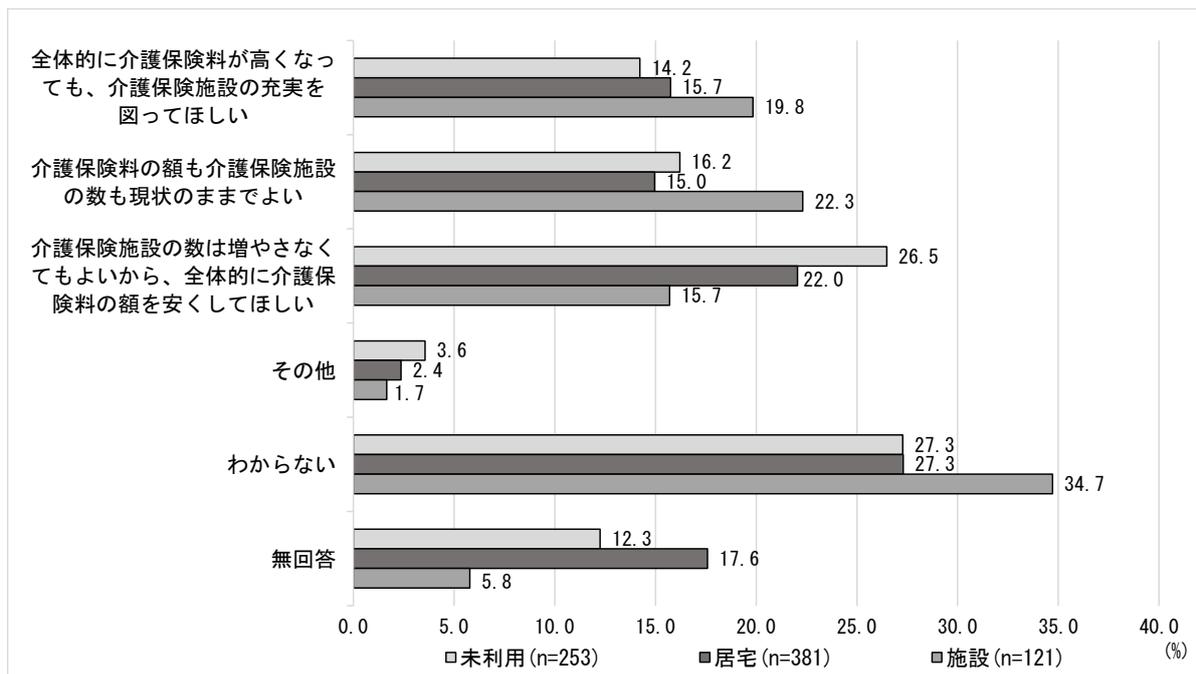


●サービス未利用者の46.3%が介護保険料を負担と回答している。

- 介護保険料について、「未利用者」では「負担が多い」が19.8%、「やや負担である」が26.5%、合計46.3%となっており、居宅サービス・施設サービスの利用者と比較して高い割合となっています。
- なお、「居宅サービス利用者」と「施設サービス利用者」では「適当な額である」がそれぞれ27.0%、25.6%となっています。(介護サービス利用アンケート)

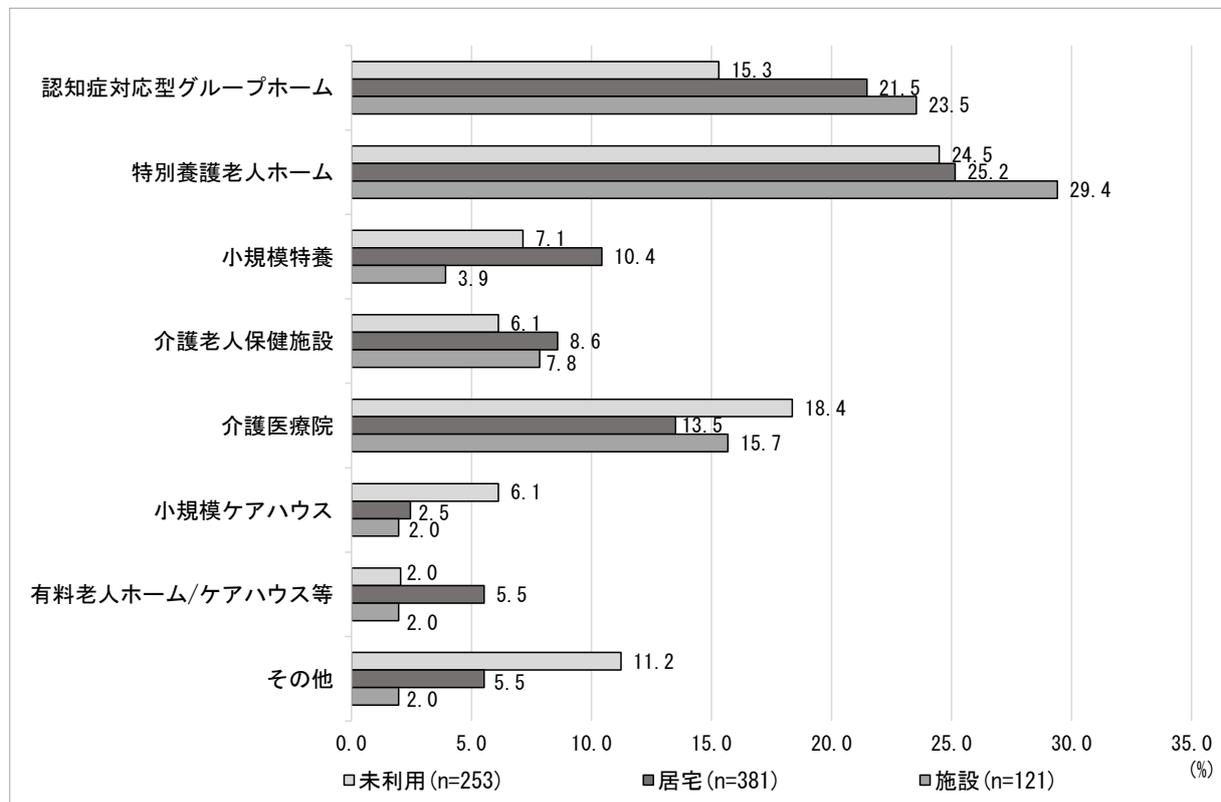


- 介護保険料と施設の整備に関して一番近い考えについて、「未利用者」と「居宅サービス利用者」では「介護保険料の額も介護保険施設の数を安くしてほしい」、「施設サービス利用者」では「介護保険料の額も介護保険施設の数も現状のままでよい」が比較的高い割合となっています。(介護サービス利用アンケート)



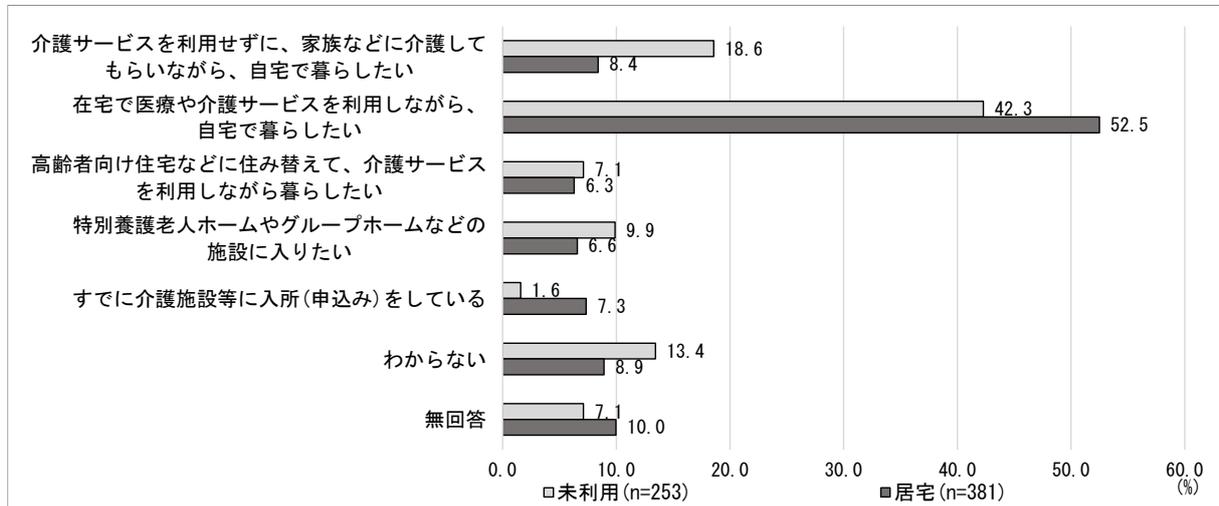
●苦小牧市で不足している施設として「特別養護老人ホーム」の割合が最も高い。

○ 苦小牧市で不足している施設について、サービス利用の有無に関わらず「特別養護老人ホーム」が最も割合が高くなっています。また、「未利用者」では「介護医療院」、「居宅サービス利用者」では「認知症対応型グループホーム」、「施設サービス利用者」では「認知症対応型グループホーム」と「特別養護老人ホーム」が比較的高い割合となっています。
(介護サービス利用アンケート)

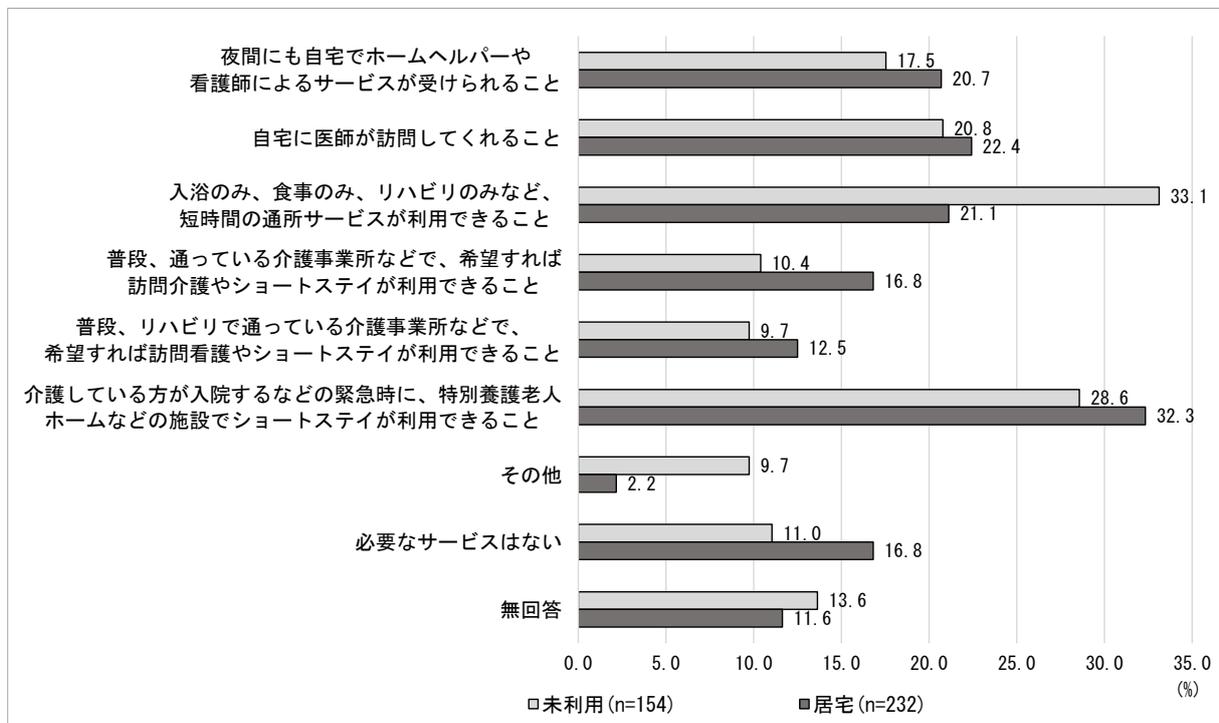


●自宅での生活希望者が6割。

- 要介護状態に大きな変化がない場合、生活の希望について、「介護サービスを利用せずに、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」と「在宅で医療や介護サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」を合わせると、「未利用者」と「居宅サービス利用者」とともに60.9%となっています。(介護サービス利用アンケート)



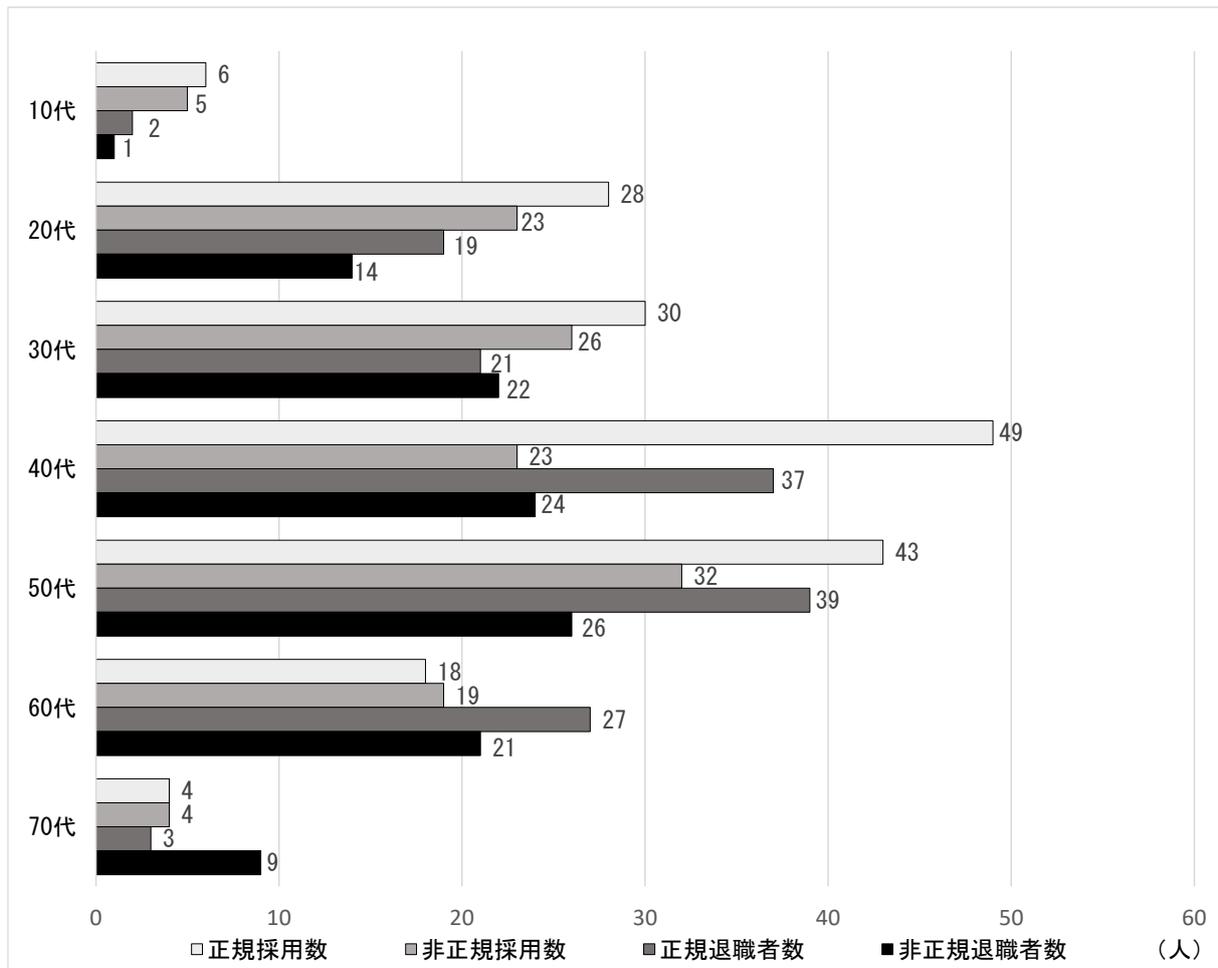
- 自宅で生活続けるために介護サービス以外に必要なサービスについて、「未利用者」では「入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが利用できること」、「居宅サービス利用者」では「介護している方が入院するなどの緊急時に、特別養護老人ホームなどの施設でショートステイが利用できること」が最も割合が高くなっています。(介護サービス利用アンケート)



(2) 介護保険サービス事業者の視点からの傾向

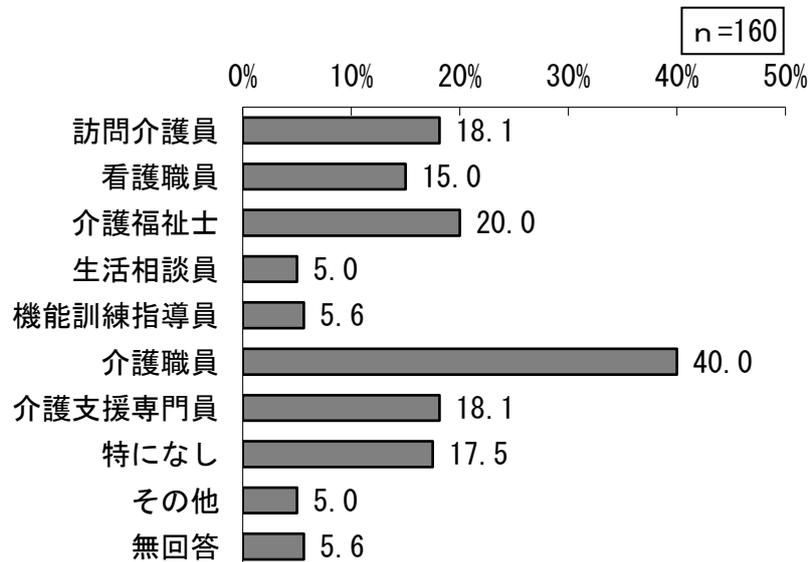
●事業所の職員採用状況について、「40代」と「50代」で正規職員の採用数・退職数が多くみられる。また、「60代」では正規・非正規どちらも退職者数が採用数を上回っている。

- 市内の事業所において、正規職員の採用数・退職者数ともに「40代」と「50代」で人数が多くみられます。
- また、「60代」では正規職員・非正規職員ともに退職者数が採用者数を上回っています。さらに、「40代」と「70代」では「非正規退職者数」が採用数を上回っています。(介護人材・意向調査)



●職員の確保に苦慮している職種について、「介護職員」の割合が高い。

- 職員の確保に苦慮している職種について、「介護職員」が40.0%と最も割合が高く、次いで「介護福祉士」が20.0%、「訪問介護員」と「介護支援専門員」ともに18.1%となっています。(介護人材・意向調査)

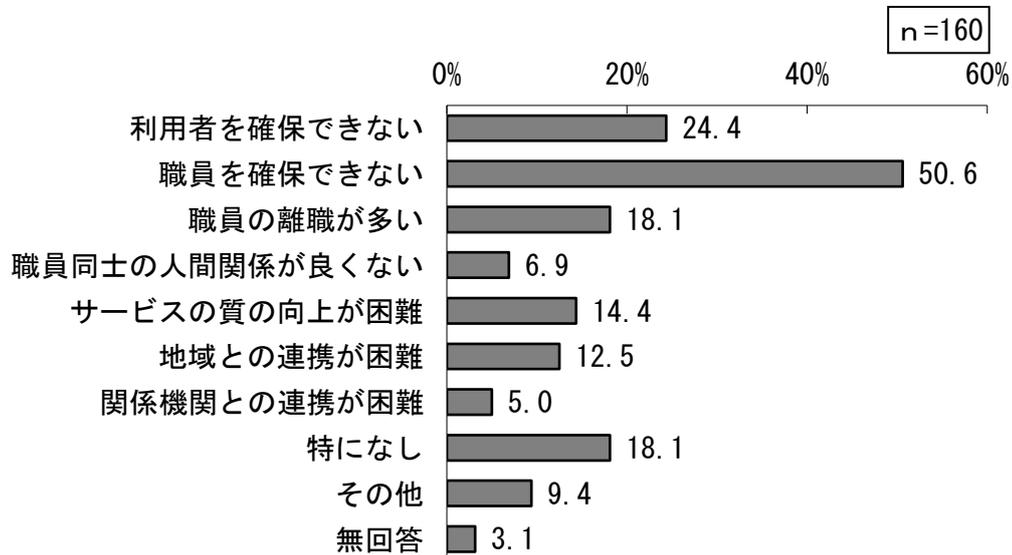


- なお、欠員となっている職種として「介護職員」と「介護福祉士」、「訪問介護員」の回答が多くみられます。(介護人材・意向調査)

職種	回答数	定員数		欠員数
		合計	平均	
訪問介護員	5	71	14.2	20
看護職員	5	33.7	6.7	6
介護福祉士	5	92	23	7
生活相談員	1	2	0	1
機能訓練指導員	1	4	0	1
介護職員	24	281	20.0	76.5
介護支援専門員	0	0	0	0
特になし	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	41	479.7	63.9	111.5

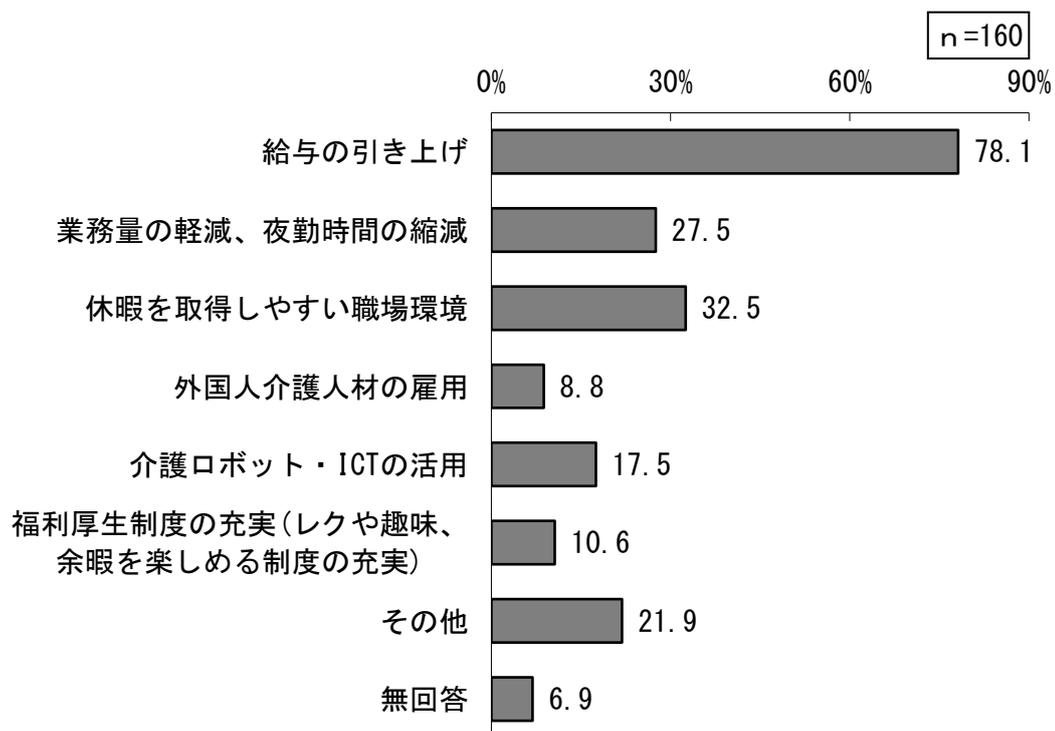
●事業所の課題として「職員を確保できない」が挙げられる。

- 事業所の課題について、「職員を確保できない」が50.6%（81事業所）と最も割合が高く、次いで「利用者確保できない」が24.4%（39事業所）となっています。
- また、「職員の離職が多い」が比較的高い割合となっているほか、「特になし」と回答している事業所もみられます。（介護人材・意向調査）

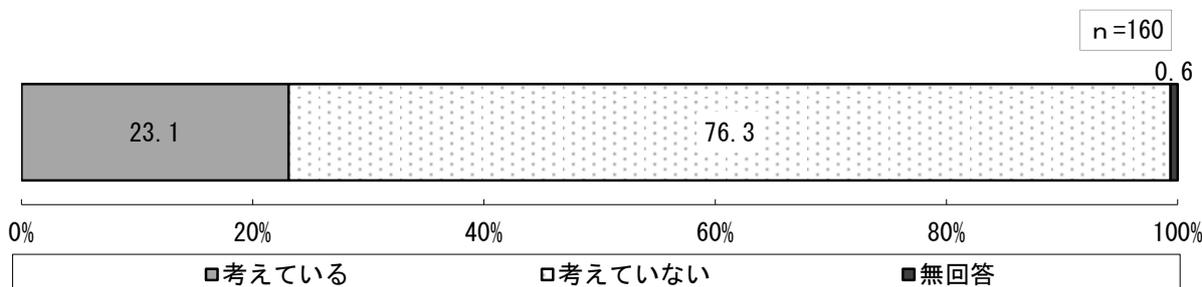


- 介護人材を確保できない理由について、「夜勤がある・土日祝休みではない（希望の休みが取れない・休みが少ない）」などの自由記述がみられます。（介護人材・意向調査）

- 介護人材不足の打開に有効なことについて、「給与の引き上げ」が78.1%と最も割合が高く、次いで「休暇を取得しやすい職場環境」が32.5%、「業務量の軽減、夜勤時間の縮減」が27.5%となっています。（介護人材・意向調査）

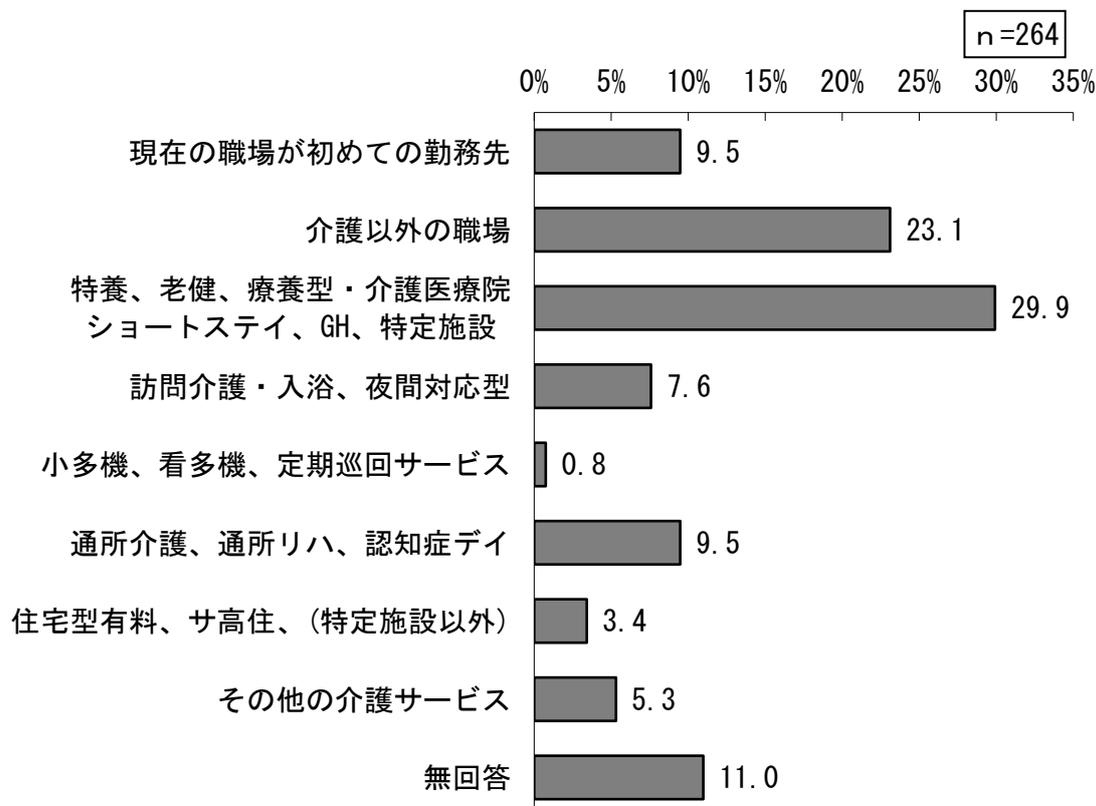


- 外国人介護人材の雇用について、「考えている」が23.1%、「考えていない」が76.3%となっています。(人材・意向調査集計報告書P14)
- なお、外国人介護人材の雇用で考えられる課題について、「言語・文化の違い、コミュニケーション」などの自由記述が多くみられます。(介護人材・意向調査)

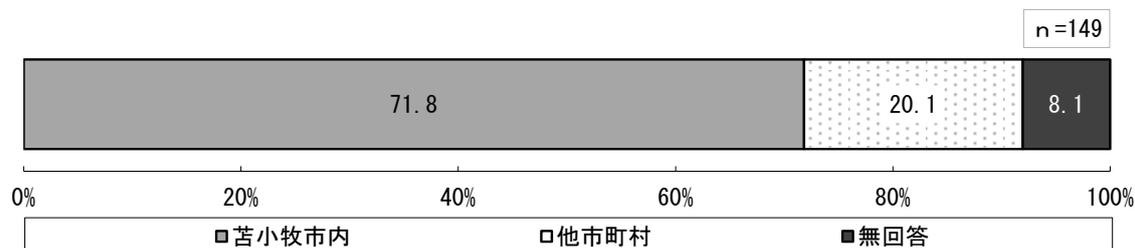


●現在の職場経験が1年未満の職員の前職は介護サービスが5割。

- 現在の職場経験が1年未満の職員が直前に働いていた職場について、「特養、老健、療養型・介護医療院ショートステイ、GH、特定施設」が29.9%と最も割合が高く、次いで「介護以外の職場」が23.1%となっています。また、「現在の職場が初めての勤務先」と「介護以外の職場」を除いたその他の区分では、56.4%が前職も介護サービス事業に勤務していたと回答しています。(介護人材・意向調査)



- 介護サービスからの転職者における直前の職場の場所は、「苫小牧市内」が71.8%、「他市町村」が20.1%となっています。（介護人材・意向調査）

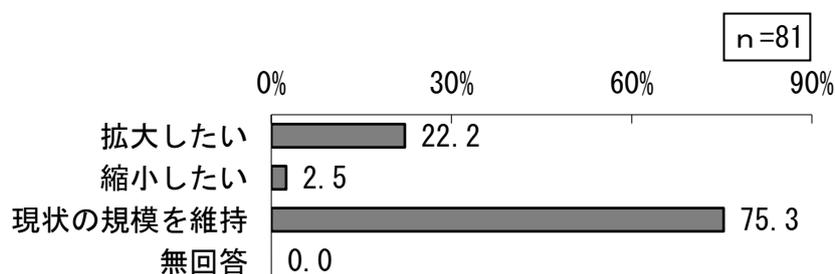


- なお、「訪問介護・入浴、夜間対応型」を除くその他のサービス種別では他市町村の事業所に勤務していた職員が一定数みられます。（介護人材・意向調査）

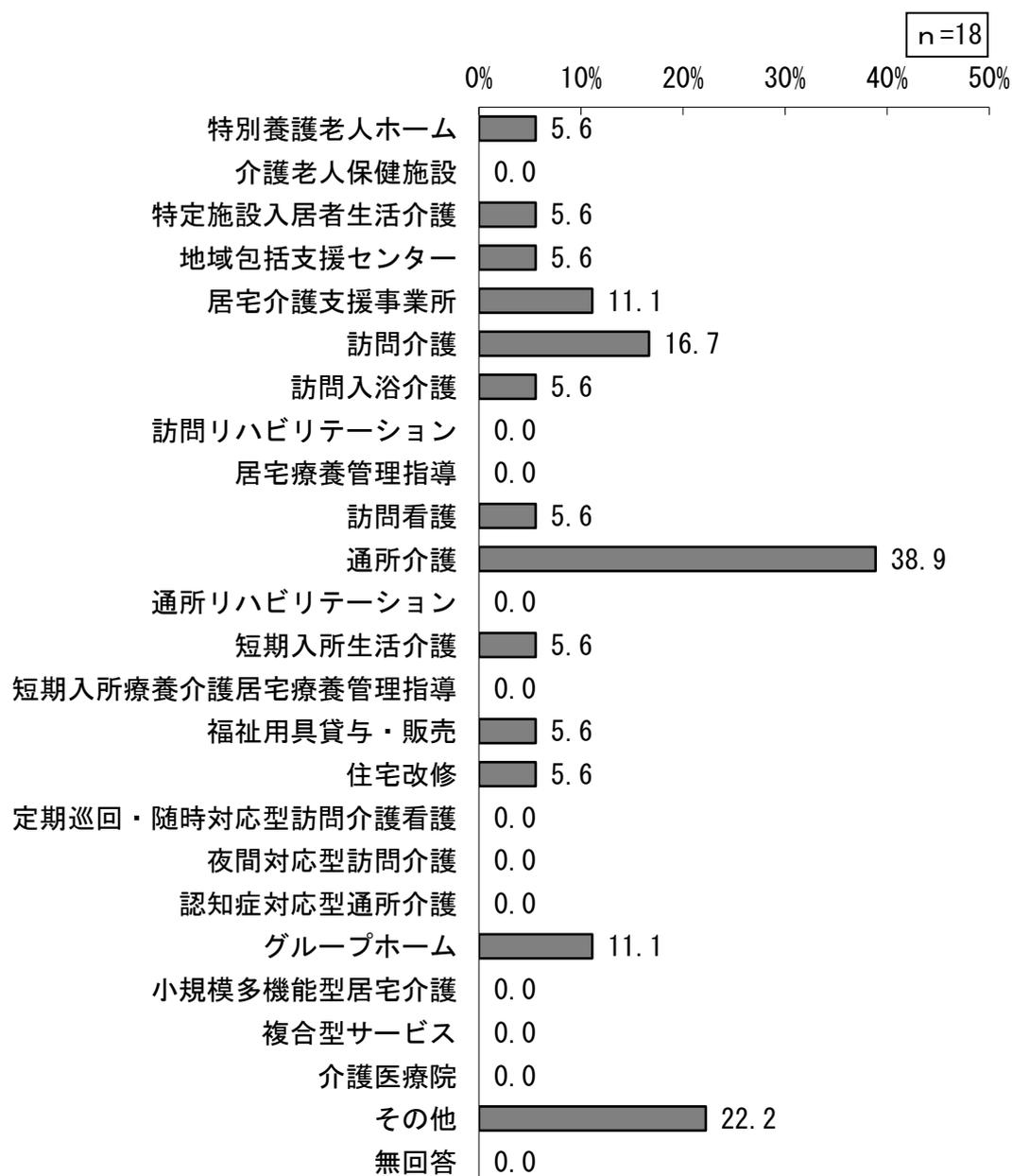
		合計	5 直前の職場について		
			苫小牧市内	他市町村	無回答
全体		149 100.0	107 71.8	30 20.1	12 8.1
4 現在の施設に勤務する直前の職場	特養、老健、療養型・介護医療院 ショートステイ、GH、特定施設	79 100.0	51 64.6	21 26.6	7 8.9
	訪問介護・入浴、夜間対応型	20 100.0	19 95.0	0 0.0	1 5.0
	小多機、看多機、定期巡回サービス	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	通所介護、通所リハ、認知症デイ	25 100.0	22 88.0	3 12.0	0 0.0
	住宅型有料、サ高住、(特定施設以外)	9 100.0	6 66.7	2 22.2	1 11.1
	その他の介護サービス	14 100.0	8 57.1	3 21.4	3 21.4

●今後の事業展開について、拡大希望が18事業所、縮小希望が2事業所。

- 今後の事業展開の意向について、「現状の規模を維持」が75.3%と最も割合が高くなっているほか、「拡大したい」が22.2%（18事業所）、「縮小したい」が2.5%（2事業所）となっています。（介護人材・意向調査）



- なお、拡大したいサービスについて、「通所介護」が38.9%（7事業所）と最も割合が高く、次いで「その他」が22.2%（4事業所）、「訪問介護」が16.7%（3事業所）となっています。（介護人材・意向調査）



- その一方で縮小したいサービスについて、「訪問介護」と「通所介護」、「短期入所生活介護」が、各1事業所から回答が得られています。（介護人材・意向調査）
- 拡大又は縮小する内容について、拡大したいサービスの「通所介護」では「1店舗で安定させて再度編成して利用者1人にかかる時間を充実させたい」、「その他（住宅型有料老人ホーム）」では「既存のサービスを拡大したい」の自由記述がみられます。縮小したいサービスの「訪問介護・通所介護」では「将来的に事業廃止を含め。」の記述がみられます。（介護人材・意向調査）
- 拡大したいサービスについて、「その他」では「サ高住」や「共同住宅」、「住宅型有料老人ホーム」の自由記述がみられます。（介護人材・意向調査）

(3) 元気な高齢者の視点からの傾向

●地域とのつながりを感じない・必要と思わない人ほど、誰かとの食事の機会がほとんどない傾向がみられる。

- 誰かと食事をする機会を地域とのつながり別でみると、「今まで感じたことはない」と「必要と思わない」では「ほとんどない」が比較的高い割合となっています。
- また、食事を共にする機会が「毎日ある」の回答は、「今まで感じたことはない」人では44.2%ですが、その他の区分では50%以上となっています。(ニーズ調査)

	合計	問18 誰かと食事をとる機会					ほとんどない	無回答
		毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある			
全体	5977 100.0	3204 53.6	396 6.6	803 13.4	915 15.3	607 10.2	52 0.9	
地域とのつながり	よく感じる	757 100.0	393 51.9	68 9.0	118 15.6	126 16.6	50 6.6	2 0.3
	たまに感じる	2086 100.0	1177 56.4	149 7.1	265 12.7	328 15.7	153 7.3	14 0.7
	あまり感じない	2084 100.0	1153 55.3	108 5.2	294 14.1	301 14.4	217 10.4	11 0.5
	今まで感じたことはない	604 100.0	267 44.2	41 6.8	80 13.2	96 15.9	114 18.9	6 1.0
	必要と思わない	109 100.0	55 50.5	11 10.1	7 6.4	14 12.8	20 18.3	2 1.8

- さらに、構成別でみると、「年に何度かある」と「ほとんどない」を合わせた「月1回未満」では「1人暮らし」で49.2%と半数近くが該当しているほか、同居している家族がいる世帯でも10%以上の割合となっています。(ニーズ調査)

	合計	問18 誰かと食事をとる機会						月1回未満	
		毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答		
全体	5977 100.0	3204 53.6	396 6.6	803 13.4	915 15.3	607 10.2	52 0.9	1522 25.5	
家族構成	1人暮らし	1423 100.0	63 4.4	199 14.0	448 31.5	394 27.7	306 21.5	13 0.9	700 49.2
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	2888 100.0	1966 68.1	98 3.4	243 8.4	371 12.8	187 6.5	23 0.8	558 19.3
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	234 100.0	171 73.1	19 8.1	16 6.8	15 6.4	11 4.7	2 0.9	26 11.1
	息子・娘との2世帯	754 100.0	534 70.8	44 5.8	49 6.5	73 9.7	52 6.9	2 0.3	125 16.6
	その他	595 100.0	431 72.4	31 5.2	39 6.6	53 8.9	38 6.4	3 0.5	91 15.3

●友人・知人に会う頻度が、性別で違いがみられる。

- 友人の家を訪ねているかについて、「男性」では「いいえ」、「女性」では「はい」が最も割合が高くなっています。(ニーズ調査)

	合計	問27 友人の家を訪ねているか			
		はい	いいえ	無回答	
全体	5977 100.0	2616 43.8	3300 55.2	61 1.0	
性別	男性	2712 100.0	925 34.1	1766 65.1	21 0.8
	女性	3256 100.0	1687 51.8	1530 47.0	39 1.2

- また、友人・知人と会う頻度について、「男性」では「ほとんどない」、「女性」では「月に何度かある」が最も割合が高くなっています。(ニーズ調査)

		合計	問37 友人・知人と会う頻度					
			毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
全体		5977 100.0	289 4.8	1353 22.6	1574 26.3	1335 22.3	1315 22.0	111 1.9
性別	男性	2712 100.0	192 7.1	535 19.7	613 22.6	654 24.1	677 25.0	41 1.5
	女性	3256 100.0	95 2.9	817 25.1	959 29.5	679 20.9	636 19.5	70 2.1

- 心配事や愚痴を聞いてくれる人・聞いてあげる人について、どちらも「男性」では「配偶者」、「女性」では「友人」が最も割合が高く、女性の方が男性よりも友人・知人と交流する機会が多いとみられます。(ニーズ調査)

		合計	問32 心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人								
			配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		5977 100.0	3170 53.0	849 14.2	2203 36.9	1730 28.9	503 8.4	2311 38.7	127 2.1	308 5.2	100 1.7
性別	男性	2712 100.0	1842 67.9	255 9.4	773 28.5	527 19.4	126 4.6	695 25.6	65 2.4	210 7.7	47 1.7
	女性	3256 100.0	1320 40.5	594 18.2	1427 43.8	1201 36.9	377 11.6	1615 49.6	62 1.9	98 3.0	53 1.6

		合計	問33 反対に心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人								
			配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		5977 100.0	2943 49.2	753 12.6	2054 34.4	1840 30.8	612 10.2	2382 39.9	104 1.7	458 7.7	161 2.7
性別	男性	2712 100.0	1746 64.4	254 9.4	802 29.6	584 21.5	174 6.4	720 26.5	55 2.0	266 9.8	65 2.4
	女性	3256 100.0	1190 36.5	499 15.3	1246 38.3	1254 38.5	437 13.4	1660 51.0	49 1.5	192 5.9	96 2.9

- 幸福度について、「男性」では「5点」、「女性」では「8点」の割合が高くなっています。また、友人・知人と会う機会別でみると、「毎日ある」では「10点」、「ほとんどない」が「5点」、その他の3項目が「8点」となっています。(ニーズ調査)

		合計	問41 現在どの程度幸せか											
			0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全体		5977 100.0	29 0.5	25 0.4	48 0.8	202 3.4	180 3.0	1280 21.4	491 8.2	865 14.5	1341 22.4	503 8.4	903 15.1	110 1.8
性別	男性	2712 100.0	20 0.7	10 0.4	29 1.1	110 4.1	91 3.4	625 23.0	240 8.8	395 14.6	564 20.8	201 7.4	385 14.2	42 1.5
	女性	3256 100.0	9 0.3	15 0.5	19 0.6	91 2.8	88 2.7	651 20.0	251 7.7	469 14.4	777 23.9	302 9.3	517 15.9	67 2.1
友人・知人と会う頻度	毎日ある	289 100.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	4 1.4	3 1.0	48 16.6	23 8.0	34 11.8	68 23.5	35 12.1	70 24.2	3 1.0
	週に何度かある	1353 100.0	2 0.1	2 0.1	7 0.5	32 2.4	23 1.7	227 16.8	106 7.8	184 13.6	369 27.3	151 11.2	238 17.6	12 0.9
	月に何度かある	1574 100.0	2 0.1	3 0.2	8 0.5	46 2.9	33 2.1	306 19.4	140 8.9	258 16.4	373 23.7	145 9.2	248 15.8	12 0.8
	年に何度かある	1335 100.0	5 0.4	7 0.5	9 0.7	45 3.4	47 3.5	291 21.8	127 9.5	209 15.7	311 23.3	103 7.7	159 11.9	22 1.6
	ほとんどない	1315 100.0	18 1.4	11 0.8	23 1.7	73 5.6	72 5.5	391 29.7	89 6.8	171 13.0	214 16.3	63 4.8	173 13.2	17 1.3

●日常生活圏域によって地域との関わり・幸福度に差がみられる。

- 地域住民の有志による活動に参加者としての参加意向について、「中央部南西地区」と「中央部地区」では「参加したくない」、その他の5地区では「参加してもよい」が最も割合が高くなっています。一方で、企画・運営としての参加意向について、日常生活圏域別による大きな差はみられません。(ニーズ調査)

		問30 地域住民の有志による活動に、参加者として参加したいか					
合計		是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答	
全体	5977 100.0	375 6.3	2621 43.9	2573 43.0	217 3.6	191 3.2	
日常生活圏域	西部西地区	1070 100.0	69 6.4	504 47.1	424 39.6	40 3.7	33 3.1
	西部東地区	972 100.0	71 7.3	425 43.7	413 42.5	36 3.7	27 2.8
	中央部北西地区	951 100.0	50 5.3	420 44.2	416 43.7	36 3.8	29 3.0
	中央部南西地区	667 100.0	43 6.4	270 40.5	314 47.1	16 2.4	24 3.6
	中央部地区	683 100.0	39 5.7	280 41.0	313 45.8	18 2.6	33 4.8
	中央部東地区	942 100.0	57 6.1	408 43.3	406 43.1	44 4.7	27 2.9
	東部地区	683 100.0	45 6.6	309 45.2	284 41.6	27 4.0	18 2.6

		問31 地域住民の有志による活動に、企画・運営として参加してみたいか					
合計		是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答	
全体	5977 100.0	150 2.5	1671 28.0	3771 63.1	162 2.7	223 3.7	
日常生活圏域	西部西地区	1070 100.0	23 2.1	331 30.9	643 60.1	35 3.3	38 3.6
	西部東地区	972 100.0	23 2.4	283 29.1	621 63.9	21 2.2	24 2.5
	中央部北西地区	951 100.0	22 2.3	240 25.2	622 65.4	28 2.9	39 4.1
	中央部南西地区	667 100.0	16 2.4	171 25.6	433 64.9	21 3.1	26 3.9
	中央部地区	683 100.0	17 2.5	179 26.2	435 63.7	14 2.0	38 5.6
	中央部東地区	942 100.0	27 2.9	264 28.0	593 63.0	26 2.8	32 3.4
	東部地区	683 100.0	21 3.1	199 29.1	420 61.5	17 2.5	26 3.8

- 日常生活圏域での地域とのつながりについて、「西部西地区」と「中央部南西地区」、「中央部東地区」では「あまり感じない」、その他の4地区では「たまに感じる」が最も割合が高くなっていますが、「中央部東地区」で5.6ポイントの差がみられるほかは大きな差はみられません。(ニーズ調査)

		問50 居住地域で「地域とのつながり」を感じるか						
合計		よく感じる	たまに感じる	あまり感じない	今まで感じたこととはない	必要と思わない	無回答	
全体	5977 100.0	757 12.7	2086 34.9	2084 34.9	604 10.1	109 1.8	337 5.6	
日常生活圏域	西部西地区	1070 100.0	127 11.9	382 35.7	392 36.6	84 7.9	16 1.5	69 6.4
	西部東地区	972 100.0	135 13.9	351 36.1	334 34.4	83 8.5	17 1.7	52 5.3
	中央部北西地区	951 100.0	123 12.9	356 37.4	309 32.5	97 10.2	17 1.8	49 5.2
	中央部南西地区	667 100.0	86 12.9	204 30.6	229 34.3	88 13.2	14 2.1	46 6.9
	中央部地区	683 100.0	94 13.8	237 34.7	208 30.5	85 12.4	18 2.6	41 6.0
	中央部東地区	942 100.0	106 11.3	311 33.0	364 38.6	97 10.3	17 1.8	47 5.0
	東部地区	683 100.0	85 12.4	244 35.7	243 35.6	69 10.1	9 1.3	33 4.8

- 幸福度について、「西部西地区」と「中央部南西地区」、「東部地区」では「5点」、その他の4地区では「8点」が最も割合が高くなっています。(ニーズ調査)

		合計	問41 現在の程度幸せか											無回答
			0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	
全体		5977 100.0	29 0.5	25 0.4	48 0.8	202 3.4	180 3.0	1280 21.4	491 8.2	865 14.5	1341 22.4	503 8.4	903 15.1	110 1.8
日常生活圏域	西部西地区	1070 100.0	5 0.5	5 0.5	6 0.6	32 3.0	28 2.6	248 23.2	84 7.9	147 13.7	219 20.5	106 9.9	166 15.5	24 2.2
	西部東地区	972 100.0	2 0.2	3 0.3	6 0.6	24 2.5	24 2.5	189 19.4	64 6.6	138 14.2	276 28.4	91 9.4	136 14.0	19 2.0
	中央部北西地区	951 100.0	5 0.5	4 0.4	5 0.5	37 3.9	29 3.0	190 20.0	77 8.1	152 16.0	216 22.7	71 7.5	150 15.8	15 1.6
	中央部南西地区	667 100.0	5 0.7	4 0.6	10 1.5	32 4.8	23 3.4	158 23.7	68 10.2	79 11.8	133 19.9	39 5.8	104 15.6	12 1.8
	中央部地区	683 100.0	6 0.9	2 0.3	7 1.0	23 3.4	24 3.5	141 20.6	60 8.8	87 12.7	154 22.5	62 9.1	104 15.2	13 1.9
	中央部東地区	942 100.0	6 0.6	5 0.5	11 1.2	27 2.9	29 3.1	205 21.8	80 8.5	141 15.0	207 22.0	80 8.5	139 14.8	12 1.3
	東部地区	683 100.0	0 0.0	2 0.3	3 0.4	26 3.8	22 3.2	145 21.2	58 8.5	120 17.6	136 19.9	54 7.9	103 15.1	14 2.0

● 家族や友人・知人以外の相談相手として「そのような人はいない」が最も高い割合となっている。

- 家族や友人・知人以外の相談相手について、「80～84歳」以下と「100歳以上」では「そのような人はいない」、「85～89歳」から「95～99歳」にかけてでは「地域包括支援センター」が最も割合が高くなっています。
- なお、「85～89歳」から「95～99歳」にかけて「そのような人はいない」が20%以上となっており、各年齢層において家族や友人・知人以外で相談できる機関を整える必要があります。(ニーズ調査)

		合計	問36 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手										無回答
			自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会	民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター	市役所	その他	そのような人はいない		
全体		5977 100.0	398 6.7	200 3.3	687 11.5	316 5.3	1182 19.8	962 16.1	845 14.1	213 3.6	2588 43.3	408 6.8	
年齢層	65～69歳	1417 100.0	40 2.8	35 2.5	68 4.8	45 3.2	267 18.8	128 9.0	175 12.4	61 4.3	801 56.5	63 4.4	
	70～74歳	1887 100.0	107 5.7	63 3.3	177 9.4	71 3.8	387 20.5	258 13.7	278 14.7	60 3.2	894 47.4	111 5.9	
	75～79歳	1212 100.0	105 8.7	43 3.5	145 12.0	60 5.0	226 18.6	215 17.7	184 15.2	39 3.2	485 40.0	91 7.5	
	80～84歳	864 100.0	83 9.6	28 3.2	156 18.1	77 8.9	177 20.5	195 22.6	134 15.5	25 2.9	263 30.4	85 9.8	
	85～89歳	422 100.0	47 11.1	21 5.0	99 23.5	41 9.7	91 21.6	114 27.0	58 13.7	19 4.5	101 23.9	41 9.7	
	90～94歳	141 100.0	14 9.9	8 5.7	33 23.4	21 14.9	27 19.1	42 29.8	12 8.5	7 5.0	33 23.4	14 9.9	
	95～99歳	24 100.0	2 8.3	2 8.3	8 33.3	0 0.0	3 12.5	9 37.5	3 12.5	2 8.3	5 20.8	3 12.5	
	100歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	

(4) 要介護リスクの傾向

本項目は、厚生労働省が示した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」における分析項目のうち、一般的な集計とは異なる方法で分析する項目の傾向分析を行ったものです。

分析対象は、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の回答者です。

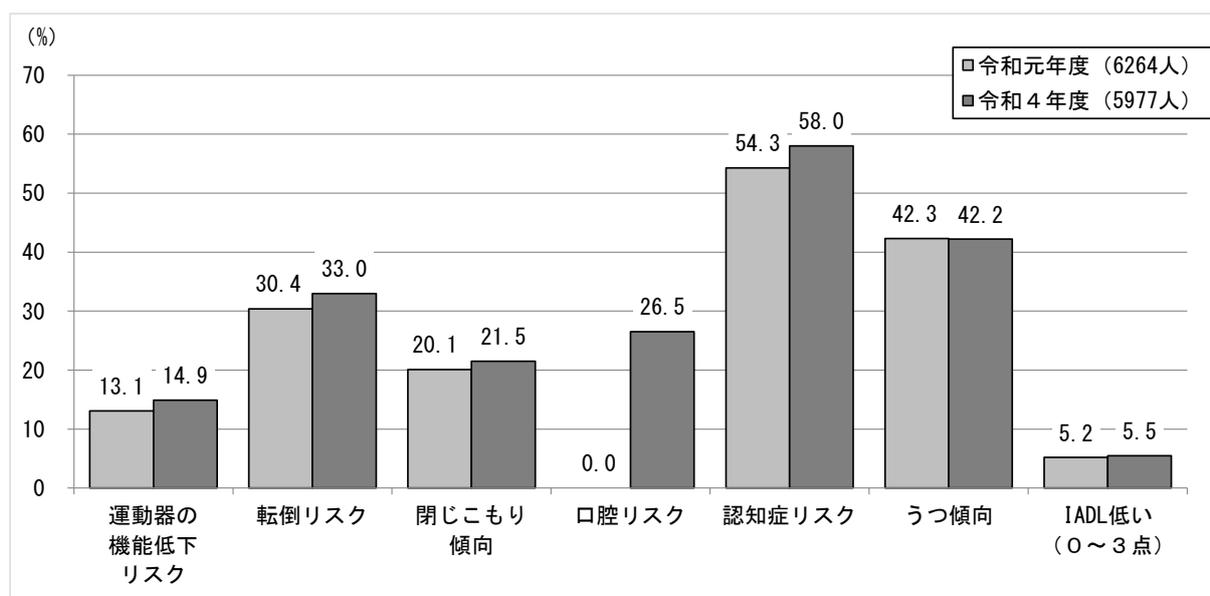
●一般高齢者の 58.0%に「認知症リスク」、42.2%に「うつ傾向」がみられる。

○ 最も割合が高い項目は「認知症リスク」で 58.0%となっており、一般高齢者の半数以上が該当しています。次いで、「うつ傾向」が 42.2%と高い割合となっています。

また、「転倒リスク」が 33.0%となっているほか、「口腔リスク」が 26.5%となっており、各分野において予防の取り組みが必要と考えられます。

これを、前回（令和元年度）調査と比較すると、「口腔リスク」と「うつ傾向」を除く 5 項目で該当者の割合が上昇しています。

特に、「認知症リスク」が 54.3%から 58.0%（+3.7 ポイント）、「転倒リスク」が 30.4%から 33.0%（+2.6 ポイント）と上昇しています。



※口腔リスクは今回のみ集計

<該当者の抽出方法>

高齢者の「要介護リスク」については、以下の設問において該当する回答者を「リスクあり」として抽出しました。

リスクの種類	設問	該当する選択肢	条件
運動器の機能低下リスク	問4 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3 できない	3問以上該当
	問5 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3 できない	
	問6 15分位続けて歩いていますか。	3 できない	
	問7 過去1年間に転んだ経験がありますか。	1 何度もある 2 1度ある	
	問8 転倒に対する不安は大きいですか。	1 とても不安である 2 やや不安である	
転倒リスク	問7 過去1年間に転んだ経験がありますか。	1 何度もある 2 1度ある	いずれかに該当
閉じこもり傾向	問9 週に1回以上は外出していますか。	1 ほとんど外出しない 2 週1回	いずれかに該当
口腔リスク	問14 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1 はい	2問以上該当
	問15 お茶や汁物等でむせることがありますか。	1 はい	
	問16 口の渇きが気になりますか。	1 はい	
認知症リスク	問19 物忘れが多いと感じますか。	1 はい	1問以上該当
	問20 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。	2 いいえ	
	問21 今日が何月何日かわからないときがありますか。	1 はい	
うつ傾向	問42 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1 はい	1問以上該当
	問43 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1 はい	
手段的日常生活動作 (IADL)	問22 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)	全設問で 「1 できるし、している」……1点 「2 できるけどしていない」…1点 「3 できない」……………0点 とし、その合計が 5点……………高い 4点……………やや低い 0～3点…低い なお、1つでも無記入がある場合は「集計外」として分類	
	問23 自分で食品・日用品の買い物をしていますか。		
	問24 自分で食事の用意をしていますか。		
	問25 自分で請求書の支払いをしていますか。		
	問26 自分で預貯金の出し入れをしていますか。		

○運動器の機能低下リスクについて

<全体的な傾向>

運動器の機能低下リスクは、回答者全体では14.9%が該当しています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「中央部地区」で17.3%、最も割合が低い「中央部北西地区」で13.2%となっており、圏域間で大きな差はみられません。

<性別の傾向>

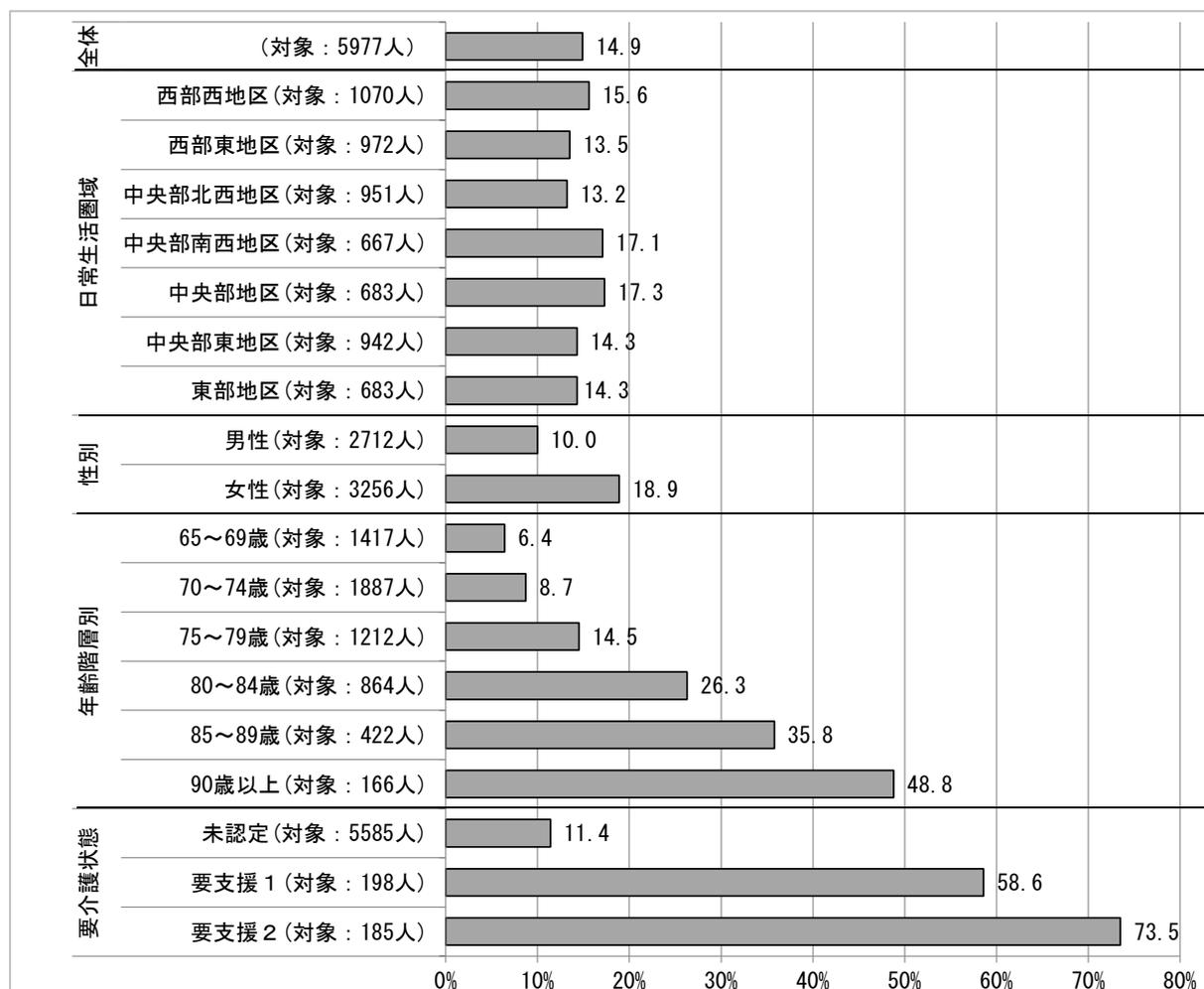
「男性」で10.0%、「女性」で18.9%となっており、女性の割合が高くなっています。

<年齢階層別の傾向>

年齢層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85～89歳」で35.8%、「90歳以上」で48.8%となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では11.4%ですが、「要支援1」では58.6%、「要支援2」では73.5%が該当しています。



○転倒リスクについて

<全体的な傾向>

転倒リスクは、回答者全体では 33.0%が該当しています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「中央部南西地区」では 35.7%、最も割合が低い「中央部東地区」で 30.0%となっており、各地区とも 30%台となっています。

<性別の傾向>

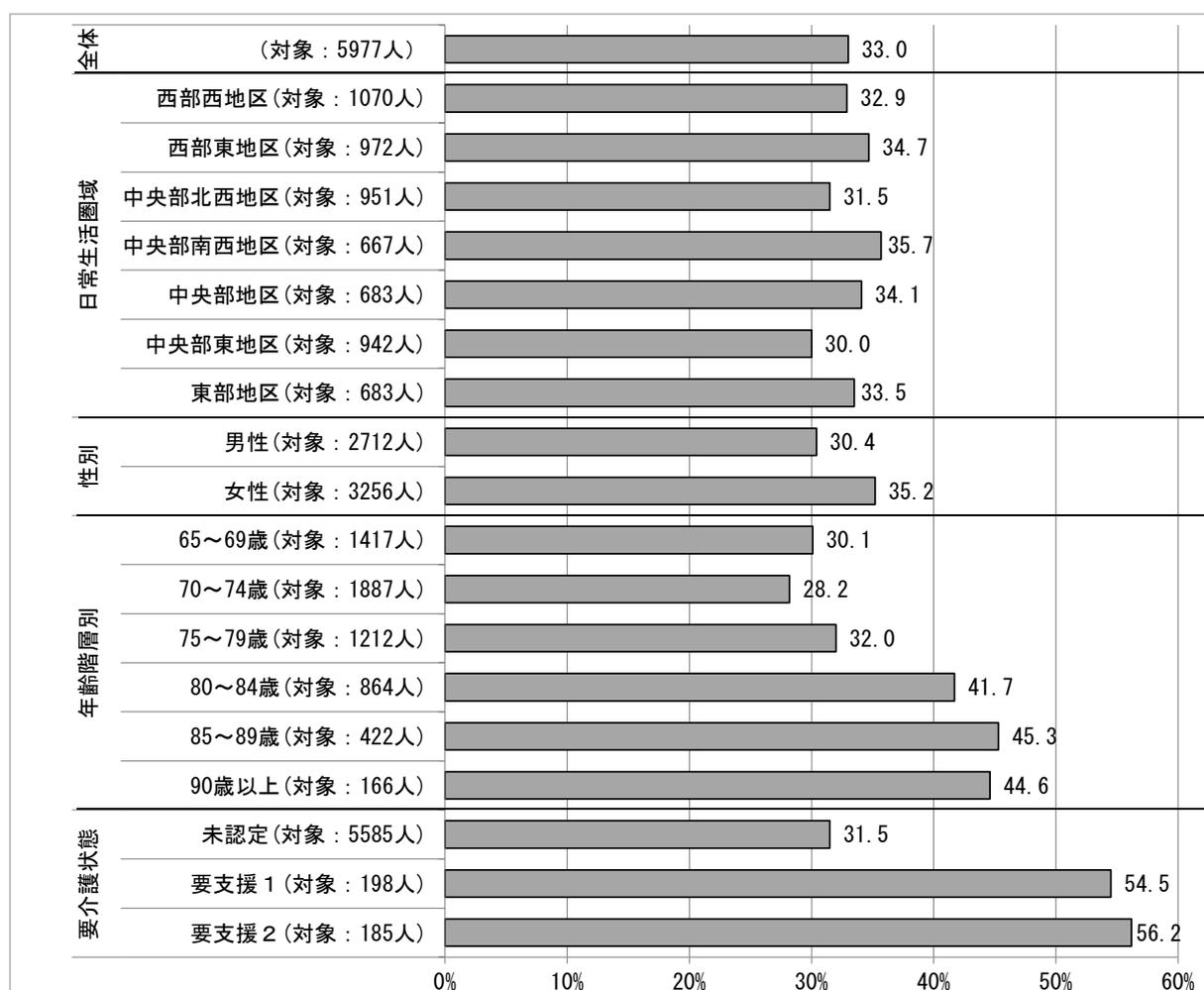
「男性」で 30.4%、「女性」で 35.2%となっており、女性の割合が高くなっています。

<年齢階層別の傾向>

「70～74 歳」以上では、年齢階層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85～89 歳」で 45.3%となっています。なお、「90 歳以上」では 44.6%となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では 31.5%ですが、「要支援 1」では 54.5%、「要支援 2」では 56.2%と半数以上となっています。



○閉じこもり傾向について

<全体的な傾向>

閉じこもり傾向は、回答者全体では 21.5%が該当しています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「中央部地区」では 24.2%、最も割合が低い「西部東地区」で 18.9%となっています。その他の 5 地区では 19~23%台の範囲となっています。

<性別の傾向>

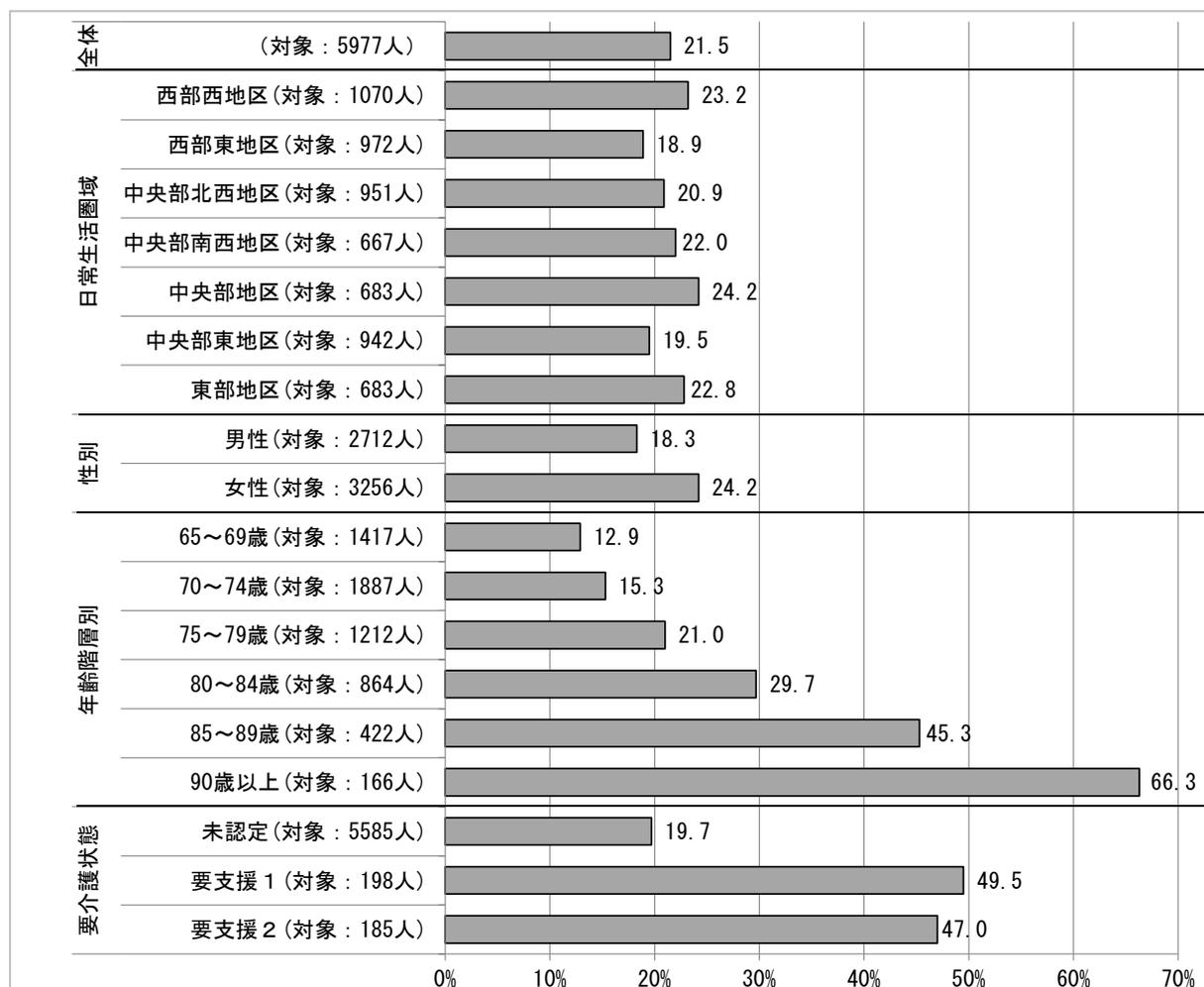
「男性」で 18.3%、「女性」で 24.2%となっており、女性の割合が高くなっています。

<年齢階層別の傾向>

年齢層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85~89 歳」で 45.3%、「90 歳以上」で 66.3%となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では 19.7%ですが、「要支援 1」では 49.5%、「要支援 2」では 47.0%と半数近くとなっています。



○口腔リスクについて

<全体的な傾向>

口腔リスクは、回答者全体では 26.5%が該当しています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「中央部南西地区」では 29.5%、最も割合が低い「中央部東地区」で 25.2%となっており、圏域別による大きな差はみられません。

<性別の傾向>

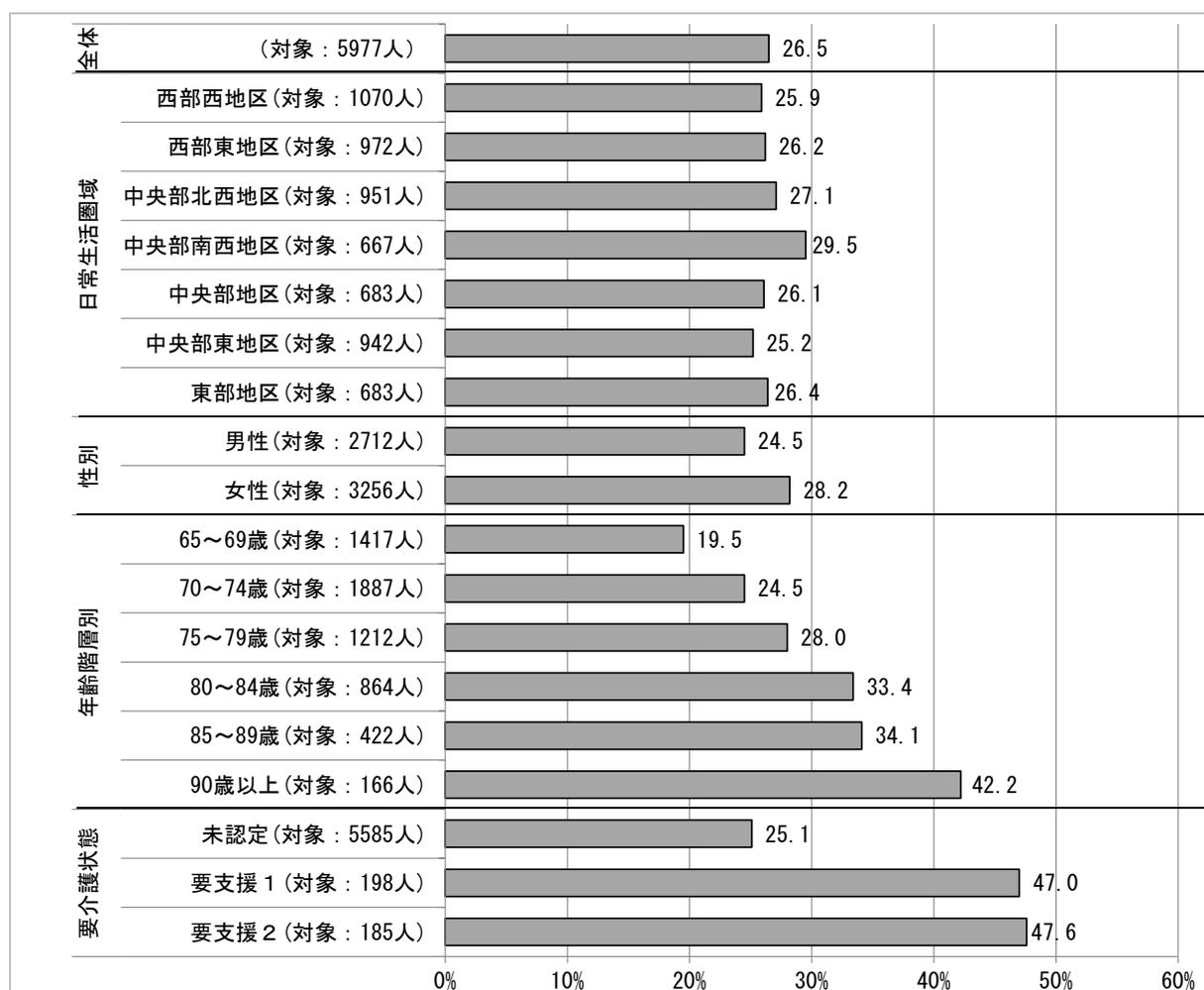
「男性」で 24.5%、「女性」で 28.2%となっており、女性の割合が高くなっています。

<年齢階層別の傾向>

年齢層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85～89 歳」で 34.1%、「90 歳以上」で 42.2%となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では 25.1%ですが、「要支援 1」では 47.0%、「要支援 2」では 47.6%となっています。



○認知症リスクについて

<全体的な傾向>

認知症リスクは、回答者全体では 58.0%と、半数以上が該当しています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「東部地区」が 61.6%、次いで「中央部南西地区」が 60.1%となっており、この2地区のみ 60%を超えています。その他の5地区は 50%台後半の範囲内となっています。

<性別の傾向>

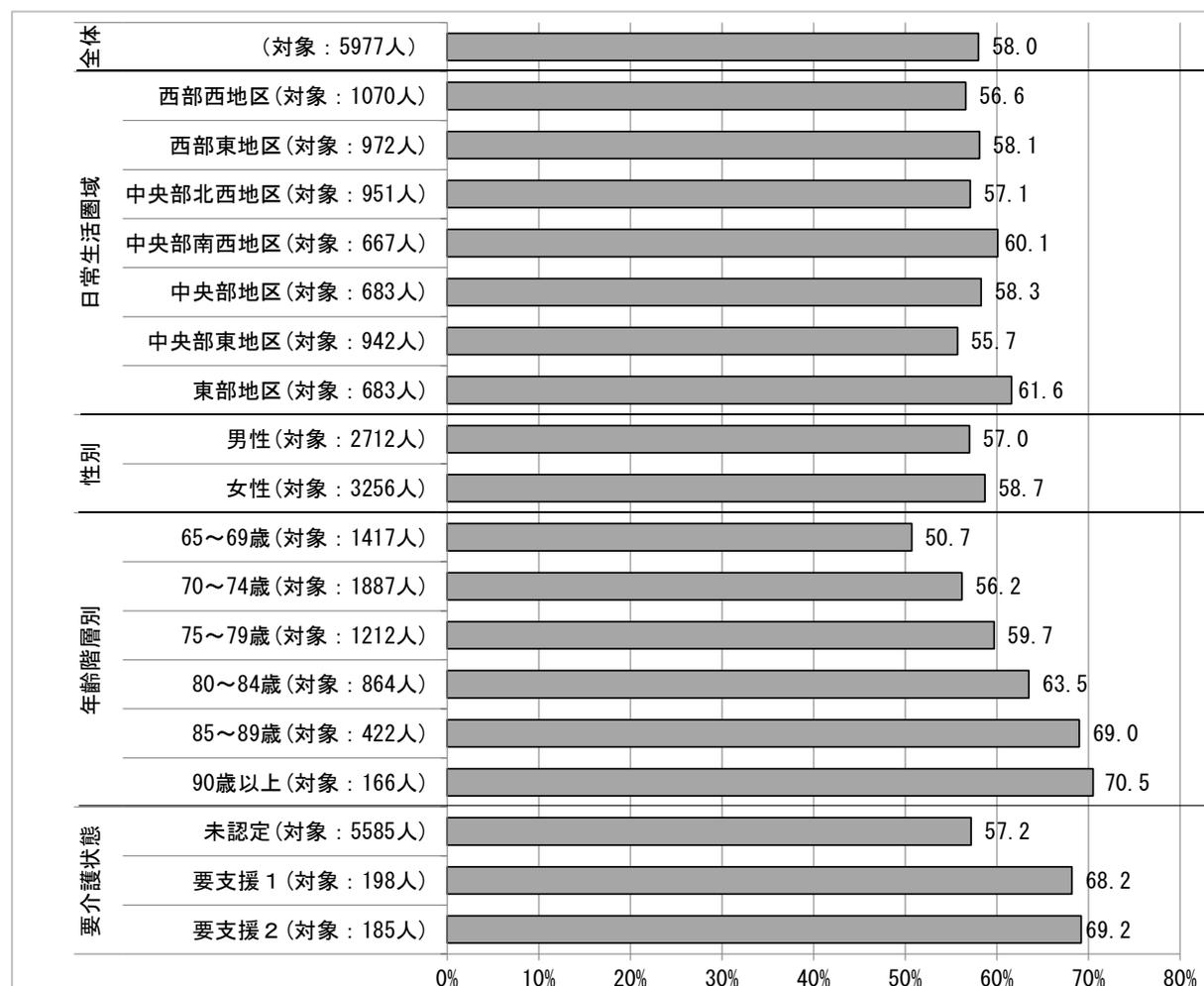
「男性」で 57.0%、「女性」で 58.7%となっています。

<年齢階層別の傾向>

年齢階層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85～89歳」では 69.0%、「90歳以上」で 70.5%となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では 57.2%ですが、「要支援1」では 68.2%、「要支援2」では 69.2%となっています。



○うつ傾向について

<全体的な傾向>

うつ傾向は、回答者全体では42.2%となっています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「中央部南西地区」では45.1%、最も割合が低い「西部西地区」で39.4%となっており、その他の5地区は41~44%台の範囲内となっています。

<性別の傾向>

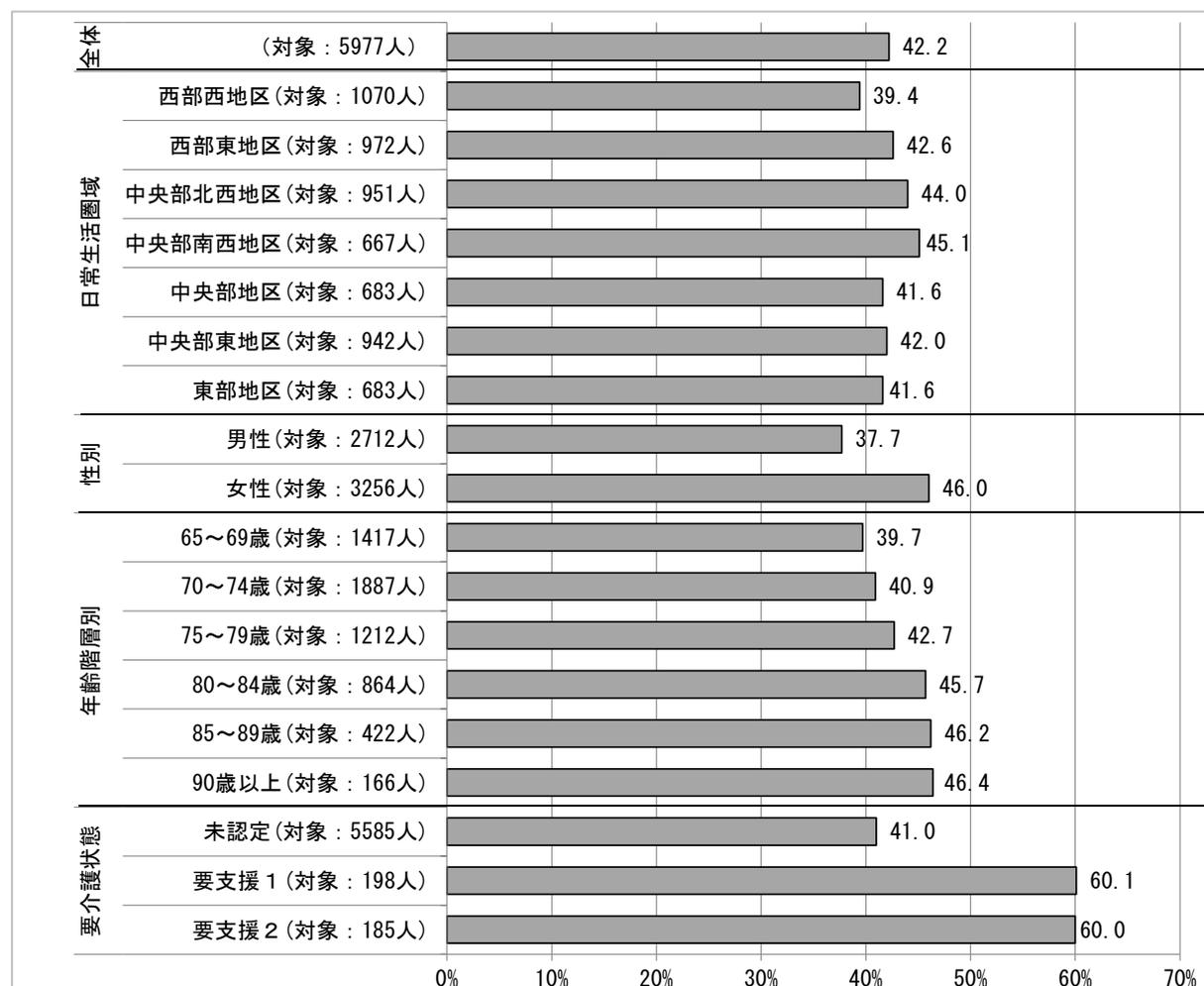
「男性」で37.7%、「女性」で46.0%となっており、男性と女性で8.3ポイントの差があります。

<年齢階層別の傾向>

年齢階層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85~89歳」で46.2%、「90歳以上」で46.4%となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では41.0%ですが、「要支援1」では60.1%、「要支援2」では60.0%となっています。



○手段的日常生活動作（IADL）について

<全体的な傾向>

手段的日常生活動作（IADL）が「低い（0～3点）」は5.5%、「やや低い（4点）」は6.9%となっています。

<日常生活圏域別の傾向>

「低い（0～3点）」は、最も割合が高い「中央部地区」で7.3%、最も割合が低い「東部地区」で3.7%となっています。

また、「やや低い（4点）」は、最も割合が高い「西部東地区」で7.9%、最も割合が低い「中央部北西地区」で6.0%となっており、各地区において6～7%台の範囲内となっています。

<性別の傾向>

「低い（0～3点）」は「男性」で6.3%、「女性」で4.7%、「やや低い（4点）」は「男性」で9.5%、「女性」で4.7%となっており、いずれも男性の割合が高くなっています。

<年齢階層別の傾向>

「低い（0～3点）」「やや低い（4点）」ともに、年齢層の上昇に合わせて該当者の割合も上昇し、「85～89歳」では「低い（0～3点）」が14.0%、「やや低い（4点）」が10.9%、「90歳以上」では「低い（0～3点）」が29.5%、「やや低い（4点）」が18.7%となっています。なお、「90歳以上」では「低い（0～3点）」と「やや低い（4点）」の合計が48.2%と半数近い割合となっています。

<要介護状態別の傾向>

「低い（0～3点）」は「未認定」では4.1%ですが、「要支援1」では19.2%、「要支援2」では31.4%となっています。また、「やや低い（4点）」は「未認定」では6.3%、「要支援1」で14.6%、「要支援2」で14.6%と同率となっています。

